

1 9 9 8

授業概要

【シラバス】

保育科

白梅学園短期大学

SHIRAYUME GAKUEN COLLEGE

目次（保育科）

教養教育科目（1年）

文学・フィクションと人間	3
王朝文学の世界	4
話し言葉の文芸	5
西洋文学	6
近代日本の歴史	7
西洋史概説	8
東洋美術	9
演劇論	10
現代社会論	11
現代家族論	12
日本国憲法	13
市民生活と法	14
政治学入門	15
生活の経済学	16
心理学入門	17
マスコミュニケーション概論	18
現代社会と女性	19
自然科学史	20
生命の科学	21
生物と環境	22
生活の科学	23
健康の生理学	24
宇宙と地球	25
情報処理入門	26
総合科目 人間	27
総合英語Ⅰ－1、2	29
選択語学Ⅰ－1 海外語学研修	33
スポーツA（ダンス）	34
スポーツA（テニス）	35
スポーツA（バドミントン）	36
スポーツA（バレーボール）	37
スポーツB（スキー）	38
健康科学	39
スポーツ科学	40

専門教育科目（1年）

社会福祉概論	43
児童福祉	44
保育原理Ⅰ	45
教育原理	47
発達心理学	49
教育心理学	50
小児保健Ⅰ	51
小児栄養	52
保育内容総論	53
健康（保健行動）	54
言葉Ⅰ（言語行動）	55
乳児保育Ⅰ	56

児童文化	57
音楽Ⅰ（基礎理論）	58
音楽Ⅰ（ピアノ）	59
音楽Ⅰ（声楽）	60
図画工作Ⅰ	61
ゼミナールⅠ	62
幼稚園実習	63
実習指導	64
保育所実習Ⅰ	65

専門教育科目（2年）

社会福祉方法論	69
保育原理Ⅱ	70
養護原理Ⅰ	71
養護原理Ⅱ	72
臨床心理学	73
小児保健Ⅱ	74
小児保健実習	75
小児栄養実習	77
精神保健	79
教育課程総論	80
人間関係（社会行動）	81
環境Ⅰ（自然認識）	82
表現Ⅰ（文化行動a）	83
表現Ⅰ（文化行動b）	85
環境Ⅱ	86
言葉Ⅱ	88
表現Ⅱ（ダンス）	89
表現Ⅱ（デザイン）	90
表現Ⅱ（子どもの音楽）	91
保育計画法	92
乳児保育Ⅱ	94
養護内容	95
障害児保育	96
家庭管理	97
音楽Ⅰ（ピアノ）	98
音楽Ⅰ（声楽）	99
音楽Ⅱ（ピアノ）	100
音楽Ⅱ（うた）	101
音楽Ⅱ（ギター）	102
図画工作Ⅱ	103
体育Ⅰ	104
体育Ⅱ	105
ゼミナールⅡ	106
幼稚園実習	125
実習指導	126
保育所実習Ⅱ	127
施設実習Ⅰ	128
施設実習Ⅱ	129

教養教育科目（1年）

【授業科目名】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>小説、映画、ドラマの中の「世界」は、<u>どこに</u>あるのだろう。それは、我々の住んでいる「この現実」とは別の、「もう一つの別世界」だ。この「別世界」の構造（しくみ）を考え、「芸術・フィクション」の秘密に迫るのが目標です。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>随時、プリントを配布します。プリント以外の「読書課題」は、ありません。</p>	
授 業 計 画	
<p>だいたい、次のような流れで、講義して行きます。 具体的作品は、プリント等を使って紹介＝解説します。</p> <p>①「フィクション」について</p> <p>例えば「小説」に書かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり「フィクション・虚構・ウソッパチ」だ。……映画も、テレビドラマも同じこと。 しかし、我々は、<u>なぜ</u>、そんな「ウソッパチ」に接して、感動したり、中には「生き方が変わってしまう」人まで出てくるのか。</p> <p>②「作品世界」の構造（しくみ）について</p> <p>「作品世界＝もう一つの別世界」は、どのような「仕組み」で出来ているのだろうか。……そもそも、それは、<u>誰が</u>「見ている」世界なのか。「語っている」のは「誰」なのか。少なくとも、いわゆる「作者」ではないはずだ。</p> <p>③フィクションと「現実」について</p> <p>小説・映画・ドラマは「現実ではない」という。では、「現実」とは何なのだろう。何が「フィクション」で、何が「フィクションではない」のか。</p> <p>……日本とヨーロッパの、近代文学作品を中心に、美術や音楽も視野に入れた講義になると思います。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて「書く」形式。 講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておけば、大丈夫。 出席点を加味して、総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 王朝文学の世界	【担当者】 久保木寿子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 日本の古典作品の多くが、受験文法のために使われるのみで、その内容を知られないままに終わってしまうのは、とても残念なことだと思われる。</p> <p>優れた古典は、作品としての主張を持っており、現代に生きる私たちの解釈をこそ待っている。王朝文学のおもしろさに気づくことが、第一の目標である。ついで作品の主張の意味を時代に即して考えることにしたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>岩波文庫『竹取物語』・配布プリント</p> <p>参考書は授業時に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>初期の物語作品からまず『竹取物語』をとりあげ、口伝えによるカタリから物語が生成してくるの意味について、考えていく。</p> <p>ついで『源氏物語』をとりあげて、物語の成熟のさまを見る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、様々な竹取の物語 2、カタリの話型と、話型による物語 3、難題婚譚の達成 4、かぐや姫とは何か（物語の主題） 5、物語の中の異界：『古事記』の場合・『源氏物語』の場合 6、源氏物語の論理：形代・予言・宿世・身分 7、源氏物語の主題：王法と仏法・社会制度と自我 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験時レポート、及び授業時の〔マドノメモ〕による。</p>	

【授業科目名】 話し言葉の文芸	【担当者】 東喜望
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 将来に資するために、口承文芸をとりあげます。 初めに、口承文芸（昔話・伝説・神話など）を概観し、日本の代表的な話をとりあげながら、その話の淵源をたずねていきます。 大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考究していく予定です。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 1. 適宜に、講義資料を西配布します。 2. 参考書：岩波文庫『日本の昔ばなし』I. II. III (関敬吾編)</p>	
授 業 計 画	
<p>講義は、およそ以下の項目にそっておこないます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然と文化 2. ことばと文化 3. 文芸の起源 4. 口承文芸 5. 昔話の形態 6. 昔話のルーツ 	
【評価方法】 定期試験のときに実施する筆記試験。	

【授業科目名】 西洋文学	【担当者】 衣川清子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 女性作家によって書かれた19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のいくつかに触れることによって、知識、視野、教養の幅を広げることを目標とします。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキストは特になし。参考書や資料は必要に応じて紹介します。</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業では19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のうちから、女性作家によって書かれたいくつかの作品を選び、作品が生まれた背景、作品の内容と特徴、作者の横顔、その作品がどのように読まれてきたかなどを紹介し、あわせて女性をとりまくさまざまな問題を考える一種の文学案内にしたいと思っています。</p> <p>毎回の授業で一つの作品を扱う予定です。取り上げる予定の小説は、ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』、ルーシー・モード・モンゴメリー『赤毛のアン』、フィリッパ・ピアス『トムは真夜中の庭で』、ローラ・インガルス・ワイルダー『大きな森の小さな家』、マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』、アリス・ウォーカー『カラー・パープル』、イサベル・アジェンデ『精霊たちの家』、エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』、テリー・マクミラン『ため息つかせて』、スザンナ・タマーロ『心のおもむくままに』などです。また、ミステリーのジャンルから、気になるいくつかの作品を取り上げる予定です。（作品リストは変更する場合があります。）音声や映像の資料がある場合はそれらも活用したいと思います。この機会にいろいろな小説を読みたいと思っている学生の聴講を期待します。</p> <p>授業の進め方やスケジュールなど、詳しくは初回の授業で説明します。</p>	
<p>【評価方法】 平常点と期末レポート（「書評」）の総合評価とします。詳細は授業中に説明します。</p>	

【授業科目名】 近代日本の歴史	【担当者】 伊香俊哉
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>近代日本の歩みは戦争との関わり抜きには語れない。その戦争が近隣諸国・諸地域になにをもたらしたのかについての理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：特になし 参考文献：多数あるので、講義の中で逐次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>近代日本の歩みを主に対外的な軍事的展開を中心にみていく。そしてその中での日本軍の行動の違法性や犯罪性について各自に考えてもらいたい。</p> <p>以下のテーマを取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇日本の大陸進出 ◇戦争違法化 ◇中国ナショナリズムと日本 ◇日本の中国侵略 ◇「従軍慰安婦」 ◇731部隊 ◇南京事件 ◇昭和天皇と十五年戦争 ◇東京裁判 ◇BC級裁判 ◇戦後補償問題 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席とレポート又は筆記試験により総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 西洋史概説	【担当者】 松本佐保
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>西洋の歴史について学ぶことは、何も過去について知識を得るだけでなく、現代の西洋世界がいかにして形成されたかを知ることである。現代のような国際社会において、西洋の歴史や文化を知ることが、国際理解を深める上で非常に重要である。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは用いないが、参考文献は随時指定する。また授業中に資料、プリントなども配布する。</p>	
授 業 計 画	
<p>歴史的な事件そのものを追うのではなく、その背景にある思想などによって歴史を説明する。社会・文化的側面に焦点をあて、多角的に歴史を見る目を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代西洋文明の形成：ギリシャとローマ時代 2. キリスト教と神聖ローマ帝国 3. ルネサンス時代 4. 宗教改革と反宗教改革 5. スペインの黄昏とフランスの黄金時代 6. 商業革命と産業革命 7. フランス革命とナポレオン戦争 8. ウィーン会議から社会主義の誕生まで 9. 近代国民国家の形成 - アメリカ、ドイツ、イタリア - 10. 第一次世界大戦 11. 第二次世界大戦 12. 戦後：冷戦時代とヨーロッパ統合 13. 総括 	
<p>【評価方法】 平常点。(出席点、但し私語などで授業を妨げたら減点)と、試験の結果に応じて評価する。</p>	

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】 山田 磯夫
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 東洋といっても範囲が広く、各地域ごとに相異なる文化圏に属し、異なった美術様式をもっているため、これらを一元的に講義することは困難である。そこでこの講座では、アジアの諸地域にわたって強く影響をおよぼした仏教に焦点をあて、極東の国・日本で生み出された仏教美術、特に仏教彫刻について概観する。	
【テキスト・参考書】 参考書 : 辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』美術出版社 久野 健 『仏像の歴史』 山川出版社	
授 業 計 画	
<p>日本の仏教美術は近世以前の日本美術の形成・発展において常にその母胎となってきた。この講座では、まず仏教美術理解の基本である仏像の見方について学び、次いで古代から中世に至る仏像彫刻を取り上げ、彫刻様式の流れの理解につとめる。スライド使用。</p> <p>以下のテーマに沿って進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①はじめに一東洋の文化圏とシルクロード ②仏像の見方(1) ③仏像の見方(2) ④飛鳥時代の彫刻Ⅰ—仏教伝来と最初の仏像 ⑤飛鳥時代の彫刻Ⅱ—法隆寺の仏像と止利仏師 ⑥白鳳時代の彫刻 —旧山田寺の仏頭 ⑦天平時代の彫刻Ⅰ—薬師寺の仏像 ⑧天平時代の彫刻Ⅱ—東大寺の仏像 ⑨平安時代の彫刻Ⅰ—木彫の誕生と一木造 ⑩平安時代の彫刻Ⅱ—寄木造と仏師定朝 ⑪鎌倉時代の彫刻 —南都復興と慶派仏師 ⑫講義のまとめ 	
【評価方法】 筆記試験	

【授業科目名】 演劇論

【担当者】 高橋秀雄

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇について考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探究する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

授 業 計 画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには、西欧の諸演劇と日本の演劇を比較することによって、その多様性と特質を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1. 宗教儀礼と演劇
2. 悲劇と喜劇
3. 能と「花伝書」
4. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
5. 歌舞伎と「虚実皮膜論」
6. 歌舞伎と新劇
7. オペラとミュージカル
8. 比較演劇論
9. 現代と演劇

【評価方法】

1. 期末のレポート
2. 授業時の小レポート
3. 授業時の平常点

左記3項による総合評価

【授業科目名】 現代社会論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 現代日本社会は複雑な仕組みをもって高度に発達している。この社会を考えると、いろいろなアプローチがあるが、本講では社会学的な把握を試みる。人間の社会学理解からはじめる本講は、いずれ毎日、新聞やテレビに現れるテーマをとりあげ、それらがもつ課題を「人間らしく生きる」という観点からも整理する。	
【テキスト・参考書】 講義中に適宜指示する。	
授 業 計 画	
1. 「人間が生きる」ということ 2. 人間の行動・行為 3. 「人間らしく」生きることと欲求 4. 人間を特徴づけるパーソナリティ 5. 行動様式としての文化 6. 集団生活のあり様 7. 現代日本社会の諸相	- 社会的存在としての人間を追求する。生物体のヒトから生活体の人間への変換点は何か。「人間らしく」生きる意味を考える。 - 人間の生活＝生きるということは、行動（行為）の連続であり、したがって行動（行為）について説明する。 - われわれ人間にとって行動は欲求充足のためにとられる。しかし、欲求にはいろいろな次元からとらえられるべきであり、現代社会におけるわれわれの生き方と欲求のあり方について考える。 - 人間の行動を特徴づけるものとしてパーソナリティを位置づける。現代に生きるわれわれが、どのようにパーソナリティを形成していくか考える。 - とくに社会規範に注目する。複雑な社会に生きるわれわれにとって文化がもつ意味を考える。 - 人間はふつう重層的にいくつかの集団に属しているものであり、その一員としての生活を送る。集団がどのように個人の生き方を規制するか、一方で個人がどのように集団をつくっていくか考える。 - 現代日本を特徴づける社会変動について説明する。とりわけ都市化について述べる。
【評価方法】 ペーパーテスト	

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉－家族問題への対応』 培風館</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 人間にとって家族とは何か</p> <p>2. 家族のはたらき</p> <p>3. 家族のタイプ</p> <p>4. 家族のしくみ</p> <p>5. 家族と福祉</p> <p>6. まとめ</p>	<p>－ 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。</p> <p>－ 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一樣に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。</p> <p>－ 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家族のタイプが望ましいか、考える。</p> <p>－ 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。</p> <p>－ 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。</p> <p>(1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉</p> <p>－ 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストを期末に実施</p>	

【授業科目名】 日本国憲法	【担当者】 駒村圭吾
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 日本国憲法における統治機構(国のしくみ)と人権(自由や平等)について講義する。日常的事例を用いて平易に語るつもりである。また、判例・学説の紹介もすることになり、憲法感覚のようなものも伝えたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 板書を行うので、テキストは特に指定しない。 ただし、何でもよいので六法全書を携行してもらいたい。</p>	
授 業 計 画	
<p>日本国憲法の内容は、多岐にわたるが、その中から重要かつ日常的なものも採り挙げ、ときには毎回「読み切り」的に講義したい。今のところ、以下の項目を語るつもりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 憲法の基本原理・基本構造 (2) 人権の主体(外国人, 天皇, 未成年者, 公務員, 在監者) (3) 表現の自由, 信教の自由, 政教分離 (4) 生存権, 教育を受ける権利 (5) 平等, 幸福追求権, 新しい人権 (6) 天皇, 国防(9条) (7) 統治のしくみ(政治のしくみと裁判所) (8) フェミニズムと女性の権利 (9) 死と生の自己決定(安楽死, 中絶, 死開) <p>* なお、担当者は、教室管理に厳格であるので、この点注意されたい。私語が厳禁なのは当然のこととし、その他受講態度が不良の者は、たとえ初犯であっても、その場で単位の不授与を決定し、一切の抗弁も認めないことがあり得る。</p> <p>* 事例を用いて、分かりやすく語るつもりである。予習は特に必要ではないが、毎回出席して克明にノートを取り、復習する努力はしてほしい。</p>	
<p>【評価方法】 毎月末試験による評価 (場合によっては出席実績も勘案する。)</p>	

【授業科目名】 市民生活と法	【担当者】 武藤健一
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 2年後（あるいは1年後）、女性である皆さんが実際に社会に出ていって みて遭遇すると思われる事柄・問題について、法律という観点も加えて、自分 の今後（・大げさにいえば人生）を考えるきっかけをつくること。	
【テキスト・参考書】 教科書を使うかどうかは未定ですが、参考書として、 角田由紀子 著「性の法律学」（91年 有斐閣）、副田 隆重 他著 「ライフステージと法」（96年 有斐閣）の2冊をあげておきます。	
授 業 計 画	
<p>日本では女性がどのような存在としてあるのかということ、</p> <p>1° 恋愛・消費生活、2° 就職・労働、3° 結婚・離婚・家族、4° 老後・介護、と いう柱を立てて、社会学的に、法律学的に考察していくつもりです。</p> <p>また、授業数が10回未満というような事態になるとなかなか難しいのです が、それでも皆さんに直接関係のある事柄を扱う講義なので、更には皆さんが どのように考えているのかをこちらとしても知っておきたいので、様々な資 料を使いながら、かつディスカッション等もしながら授業を進めていきたい と考えています。その方が、受講している同年代の他の人たちがどう考えてい るかを知ることができるので、皆さんのためにもなると思います。</p>	
【評価方法】 学年末に試験を行ない（おそらくレポート）、授業での出席点（・参加点） を加味して評価をしたいと思います。	

【授業科目名】 政治学入門

【担当者】 加地直紀

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 政治とは権力闘争であることを、国内外の政治の実例をとおして理解する。

【テキスト・参考書】

中村勝範編著『運命共同体としての日本と台湾』(展転社、平成9年7月)

授 業 計 画

- I 多面的な観点、
核兵器、戦争、汚職=悪、反戦平和、クリーン政治=善といえるのか
- II 巧利主義という尺度
善悪ではなく、損得という尺度もある。
- III 政治の定義
政治：欲望の調整、権力闘争
市民運動という名の権力闘争もある。
- IV 日本政治における権力闘争
- V 国際政治における権力闘争
東アジア情勢を中心に

※ 受講中の私語・飲食は厳禁である(違反者は退室すること)

【評価方法】 ① 平常点、(出席はとりません。適時、小テストを行うことがあります)

② レポート

【授業科目名】	生活の経済学	【担当者】	内山哲朗
【開講期】	1年 前期		
【授業目標】	<p>現代日本経済を「生活の豊かさ」の視点より取り上げ、「経済の豊かさ」と「生活の豊かさ」の関連構造を検証しながら、「経済と生活」をつなぐ基本的論理について講義を進めていく。戦後日本経済の歩みとその問題点に目を配る中から、21世紀に向かう「日本の生活像」に関する基礎知識の修得をめざす。</p>		
【テキスト・参考書】	<p>特に指定しない。講義の中で適宜参考文献を紹介する。</p>		
授 業 計 画			
<p>講義で取り上げるテーマは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活把握の基本視点——労働・家族・地域—— 2 戦後日本経済の展開過程——時期区分—— 3 戦後日本の生活の変容 4 「豊かさ」とは何か——生活経済学の論理—— 5 「生活の豊かさ」と高齢社会 6 「生活の豊かさ」と環境問題 7 生活福祉の社会経済学——非営利・協同の経済セクター—— 8 生活福祉と社会政策 			
【評価方法】	<p>授業への出席と定期試験を総合的に勘案して評価する。</p>		

【授業科目名】 心理学入門	【担当者】 林 深
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 心理学の基本的なテーマについて紹介します。 すなわち、性格論、対人関係が、中心てきなテーマになります。	
【テキスト・参考書】 テキスト：なし 図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。 重野純「キーワードコレクション心理学」、金子隆芳「心理学フロンテア」、 大山正「心理学への招待」、北尾倫彦「心理学への招待」、 岡本栄一「心理学テイータイム」、藤本忠明「ワークショップ心理学」他	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1.心理学のなりたち： 心理学のながれについて 2.ものの見方と人間の行動について： 行動と知覚，認知との関係を考える。 3.人間の行動と条件づけ： 行動論について 4.幼児期と性格形成 VTRを利用します。 5.意識と無意識：精神分析の人間理解(1)： Freudの思想，精神分析概説 6 同 (2)： libidoの役割とlibidoの発達 7 同 (3)： 自我の防衛 8 同 (4)： 物語と夢の分析 9 性格について(1) 基本的な性格論 10 性格について(2) 性格理解の試み 11.社会・集団と人間行動 集団とリーダーの役割について 12.パニックの心理 VTR利用 13.心理療法の役割 	
【評価方法】 平常点，中間試験，レポート	

【授業科目名】 マスコミュニケーション概論	【担当者】 瀬木博道
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 現代はマスコミに支配された時代といえる。この状況を是省まえて、マスコミとジャーナリズムの本質と差違を考え、マスコミ全般の問題に足踏み込んでみたい。「知る権利の問題」に重点を置く。	
【テキスト・参考書】 瀬木博道ほか著「コミュニケーションとPR」電通 テキスト： 瀬木博道ほか著「広報の基礎Ⅰ」日経広告研究所 参考書 同上「広報の基礎Ⅰ」日経広告研究所	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ○ マスコミとは何か。現状 (上) ○ 同 上 (下) ○ ジャーナリズムとは ○ 言論の自由と知る権利 (上) ○ 同 上 (下) ○ テレビの問題点 ○ 広告概論 (上) ○ 同 上 (下) ○ 広報概論 (上) ○ 同 上 (下) ○ マスコミの未来 — 新聞を中心に 	
【評価方法】 受講態度 } と見て、筆記試験が決め手 出席状況 }	

【授業科目名】 現代社会と女性	【担当者】 富永静枝
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 男女共生社会に向けて、伝統的な性別役割分業を見直し、21世紀に生きる男女の望ましいあり方や生き方を探る。	
【テキスト・参考書】 参考書: 適宜授業中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業が見直され、働く女性が増大してる中で、女性をめぐる社会的状況は大きく変化しています。しかし一方では、不況下における女子学生の厳しい就職差別などに見られるように、女性が社会に出てから一人の人間として、自立して主体的に生きることは相変わらず困難な状況にあります。そこで変動する現代社会の諸問題、とりわけ家族、労働、教育、福祉の諸問題をジェンダーの視点から考えてみることによって、その問題状況を浮かび上がらせ、これからの望ましい男女のあり方や生き方を考えてみたい。</p> <p>内容は</p> <p>(1)女性のライフサイクルの変化と性別役割分業、</p> <p>(2)現代社会と女性労働</p> <p>(3)高齢(化)社会と女性・家族・家庭</p> <p>(4)男女共生社会に向けての世界の動き・日本の動き</p> <p>を柱とし、それぞれ2~3回講義する予定であるが、学生の問題関心の寄せ方によって、変更することもある。</p> <p>授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。また身近な問題なども取り上げることによって、それらの諸問題が学生自身の現在と将来における自分自身の問題でもあることを認識できるようにし、問題解決への意欲を持てるようにしたいと考えています。</p>	
【評価方法】 レポートその他。	

【授業科目】 自然科学史	【担当者】 柳下登
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 自然科学を学ぶことは、色々な公式、記号、概念等を覚えることだと思い、それが理科嫌いの原因になっている。科学は暗記のためのものではない。人間は自然を理解する（科学する）ことで自己を変革し、より人間らしくなった。科学することは真善美を追求する文化系の諸活動と同根である。科学の歴史は人間の歴史である。ここでは科学を語るためではなく、発想を逆転し、人間を語るために科学の足跡を追うことにした。</p>	
【テキスト・参考書】	
<p>テキスト：自然科学入門：甲斐義幸、二宮勘輔（予定） 参考書：科学思想のあゆみ（Ch. サンガー）岩波書店、物理学とは何だろうか（朝永振一郎）岩波新書、科学の考え方・学び方（池内 了）岩波ジュニア新書 他</p>	
授 業 計 画	
1) 科学を成立させた人間の条件	
<p>a. 森の生活者サル類がヒトをつくる b. 「木から落ちたサル」のサルばなれへの道 c. 四本足から二本足へ d. 道具が人間をつくる e. 脳とその入れ物（頭）の変化 f. 生きること（生活）が自然についての理解を深める g. 道具で道具をつくる h. 採集から狩人へ i. 定住と栽培、牧畜の誕生 j. 技術が先か科学が先か</p>	
2) 科学の芽生え	
<p>a. ナイル川のもたらしたもの：暦、幾何学 b. ピラミッドのもたらしたもの：数学 c. ギリシアの自然学：自然の根源を求めて（タレスの「アルケー」、デモクリトスの「アトム」、アリストテレスの「四元素説」)</p>	
3) 近代科学の成立	
<p>自然学の克服：観察、実験、数学的推論</p>	
<p>a. コペルニクスによる天動説の否定 b. ガリレイによるアリストテレスの運動通説の否定 c. ニュートンによる地上の法則の天界への導入</p>	
4) 近代科学 2 話	
<p>a. 星の一生と原子核反応：宇宙は膨張する b. バイオテクノロジー：遺伝子組換え食品、クローンと生命倫理</p>	
5) まとめ：a. 今日の自然像 b. わたしの研究史：ピートン物語	
<p>実 験：火をおこしてみよう。かまぼこの板と アジサイの枝（2×20cm）乾かしておく。</p>	
【評価方法】 定期試験にかわる課題レポート。その他、自発的なテーマ設定の提出物を評価に加える。	

【授業科目】 生命の科学	担当者 小作明則
【開講期】 一年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>21世紀を迎えようとしている今日「生物の多様性」の維持は地球上の生物環境をより安全な状態で維持していくための大きな課題である。この生物の多様性を支えている「生命」について地球物理学、化学、進化生物学そして歴史学的な理解を深め、さらに地上における「人類」が抱える今後の諸問題について概説する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト・参考書は特に指定しない。</p>	
授 業 計 画	
<p>この講義では授業目標に掲げた内容を理解するためおおよそ以下の各時間ごとのテーマに従って講義を進めていく。この講義は講義室での説明・板書だけが目的ではなく、できるかぎり実物を自分の眼で見、手でさわりバーチャルではなく五感を持って理解することを目的としたい。以下に時間ごとのおおよその講義計画のタイトルを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 太陽系と地球の誕生、物質の由来 2. 地球と水と生命誕生 3. 地球型生物の特徴と進化 4. 分子生物学と進化 5. 植物と動物の分化と進化 6. ヒトの進化と地球環境の変化 7. 動物の発生とヒトの生殖 8. ヒトの発生と成長 <p>以上を講義として行い、これ以外に博物館、水族館、動物園等さらに玉川上水の散歩等、実物を見ながら生命について考えていこうと思っている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートあるいは筆記試験</p>	

【授業科目名】 生物と環境	【担当者】 吉川研二
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>下記の書を読破し、知的体力を養う 合成化学物質の環境汚染と生命とのかかわり 科学とは何か</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>OUR STOLEN FUTURE 邦訳『奪われし未来』 1997.9 翔泳社</p>	
授 業 計 画	
<p>人類は多くの生物たちから様々な恩恵を受けてきた。しかしこの多様な生物の世界は急激に失われつつある。その最大の原因は人類による生物の生息環境の汚染や破壊、資源の乱獲などである。多くの種の消滅は私たち人類の将来にかかわってくる。</p> <p style="text-align: center;">“Today Birds Tomorrow Men”</p> <p>今から30年以上前に、海洋生物学者のRachel L. Carsonは『Silent spring』で合成殺虫剤が自然界にもたらす危険性について警告した。その警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか？知らないことが幸せなのか、知ることが不幸せなのか。</p> <p>授業は決して易しくはありません。幅広い基礎教養が要求されるはずです。今までの勉強がどれだけのものだったかが判ると思います。知る努力を惜しまず、共に考え続けていきたい。</p> <p>第 1章 前兆 2章 有毒の遺産 3章 化学の使者 4章 ホルモン異常 5章 子孫を絶やす50の方法 6章 地の果てまで 7章 シングルヒット 8章 ここにも、そこにも、いたるところに 9章 死の年代記 10章 運命の転機 11章 がんだけでなく 12章 わが身を守るために 13章 不透明な未来</p>	
<p>【評価方法】 平常点+筆記試験</p>	

【授業科目名】 生活の科学	【担当者】 滝沢靖臣
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住並びに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している分子や原子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本講義の主眼としている。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p style="text-align: center;">授業の中で項目ごとに紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。 2. 身の回りにある水分子の世界を覗く。 3. 原子と分子と私たちの生活。 4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。 5. 物質をつくっている分子の構造は何によってきまるのだろうか。 6. 物質の状態は何によってきまるのだろうか。 7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。 8. 酢は何故酸っぱく感じるのだろうか。 9. アルコールの正体は何であろうか。 10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。 11. 老化は防げるか。活性酸素の科学。 12. 物質科学とエネルギー 13. 物質科学からみた衣類。高分子化学の世界をみる。 14. 石油資源と石油化学を考える。 15. 科学は地球を救えるか。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験、レポート、出欠により評価する。</p>	

【授業科目名】 健康の生理学	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 1. 健康の概念と健康管理活動の原理の理解 2. 人体各器官独自の生理機能と臓器間の相互関係の理解 人体各器官の生理的な加齢変化と疾病と相違の理解を通して、健やかな老いについて考える 3. 代表的疾患の成因を理解し、疾病予防や健康増進に必要な基本的知識の修得	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
1. 1) 健康の定義と健康観、2) 健康度の指標、3) 健康の推移、4) 健康管理の概念、5) 保健計画と健康教育、6) ヘルスプロモーション、7) 地域健康管理活動 2. 人体各器官独自の生理機能の理解と共に、各器官の生理的な加齢変化を細胞レベルおよび器官レベルで理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器系 2) 呼吸器系 3) 消化器系 4) 脳／神経系 5) 骨／筋肉系 6) 血液系、内分泌系 7) 泌尿／生殖器系 8) 耳鼻／口腔／皮膚系 3. (I) 代表的疾患の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活習慣病（悪性新生物、動脈硬化、高血圧、心臓病、脳卒中、糖尿病等） 2) 脳、神経疾患（老年期痴呆を含む脳血管障害） 3) 各種感染症（HIVウイルスも含む） 4) 精神疾患 5) 骨粗鬆症などの骨／運動器系疾患 6) その他（各診療科目の対象となる疾病、障害についての概要等） (II) 健康増進および疾病予防法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食生活と栄養 2) 運動 3) 喫煙 4) アルコール 5) 休養とストレス 	
【評価方法】 筆記試験	

【授業科目名】 宇宙と地球	【担当者】 杉村新
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>皆さん知りたがり屋になってください。自然を知るのは、人生の基本です。そして、成るほどなあとと思うようになってください。それは自然を理解していく一步一步なのです。皆さんがそういう一步一步を感じることができれば、担当者の幸せであり目標でもあります。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：「新訂地学図解」（第一学習社） 参考書：（指定図書）「図解地学IA」（第一学習社）</p>	
授 業 計 画	
<p>最初の時間にアンケートをします。そのためにテキストが必要です。このアンケートの結果に基づいて、担当者の側で授業内容を“選択”します。第2回目の時間以後もテキストは必ず持ってくること。 講義中のおしゃべり厳禁。 毎回スライドを映しながら講義します。 授業は必ずしもテキストの順序（下記）通りではありません。順序未定。 テキストの内容： 地球の構造と働き，地震，火成岩と火山，地表の変化，地殻の変動，プレートの運動，古生物，資源・環境，大気の動き，海，太陽系，地球の運動，恒星と銀河。 こんなに沢山はできませんから“選択”するのです。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>持ち込み不可の試験で成績をつけます。自然科学は暗記物ではないから、テキストのまる暗記はダメ。内容の理解の程度を判断して採点します。</p>	

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 多喜乃 亮介
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>コンピュータを利用して「情報」とは何か、「情報を扱う（情報処理）」とはどのようなことかを理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>Microsoft Word, Microsoft Excel, Netscape Navigator, Adobe PhotoShop, Adobe Illustrator などのソフトウェアを利用する予定です。必要に応じて参考図書を指示します。</p>	
授 業 計 画	
<p>「情報」となる素材をコンピュータ上で扱うための「技術」にはどのようなものがあるのか、その情報を「整理・分類」し、「再利用」できる形で「管理・保存」するにはどのような工夫が必要か、さらに、ネットワークを介して「情報」を「共有」するためにはどのような方法が有効か、といった「情報処理」に関連する事項を、実際のコンピュータ利用技術の習得を通して理解する。</p> <p>以下の項目にしたがって進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の素材 (1) コンピュータに取り込むことのできる素材 2. 情報の素材 (2) コンピュータで作成できる素材 3. コンピュータの仕組み 情報がどのように扱われているかを知る 4. 情報の利用 <ネットワーク (1)> Web Page 上の情報利用, 情報検索 5. 情報の交換 <ネットワーク (2)> 電子メールを用いた連絡 6. 素材の作成 (1) ワープロソフトを利用した文書情報 7. 素材の作成 (2) 表計算ソフトを利用した数値情報 8. 素材の作成 (3) 絵や写真情報の加工 9. 情報の共有 <ネットワーク (3)> Web Page に情報を公開する方法 	
<p>【評価方法】</p> <p>課題の提出</p>	

【授業科目名】 総合科目人間	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本科目は前期、後期を通して開講され、副題を「人権と平和」とする。 前期は人権についての理解を深め、「ヒューマニズム」とは何かを問う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 特になし。 参考書 講義のなかで随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>今、なぜヒューマニズムを問うのかを説くなかで、現代社会の特徴と諸問題を明らかにする。人間が人間として生き、人格として育つための条件となるのが、基本的人権の主張とその保障である。人権とは何かを論じ、人権の思想の歴史的発展と現代の状況を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマニズムの意義 2. 人間を考える 3. 人権の承認と保障 <ol style="list-style-type: none"> ①人権の主張と保障の歴史 自然法思想（J. ロック）、アメリカの独立宣言、フランスの人権宣言 世界人権宣言（国際連合）、日本国憲法 ②基本的人権の種類 自由権的基本権と社会権的基本権 ③教育・福祉と人権の保障 4. 人権思想の発展と現代の課題 <ol style="list-style-type: none"> ①権利保障の充実に求めて 女性の権利、子どもの権利 ②新しい人権の主張 プライバシーの権利、知る権利、環境権 ③新しい倫理と法 環境倫理学、生命倫理学 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートの提出および授業への出席</p>	

【授業科目名】 総合科目人間	【担当者】 伊香俊哉
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>近現代の世界各地におけるいくつかの戦争をとりあげ、戦争とは何か、戦争は人々に何をもたらすのかといったことを考えることを通じて、平和とは、平和を生みだし、維持するための条件は何かとの間に接近したい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：特になし</p> <p>参考文献：多数あるので、講義の中で逐次紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業ではまず戦争に興味をもってもらうことから始める。そのため戦争を題材としたドキュメンタリーや映画などを観てもらおう。その上で、その戦争がどのような歴史的な経緯で起こったのか、民衆にどのような規模の被害をもたらしたのかといったことを解説していきたい。</p> <p>授業では次のテーマを取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ベトナム戦争 ◇中東紛争 ◇ボスニア紛争 ◇湾岸戦争 ◇ルワンダ紛争 ◇A B C兵器 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席とレポート又は筆記試験により総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 総合英語 I - 1、2 (保育科)	【担当者】 磯山 滯一
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>比較的短くて平易な英文をもとに、読む力をのばすとともに、英語の文法・構文の基本を習得する。また学習した英文や、例文を活用して自分のことを表現できるようにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは配布するプリントで</p>	
授 業 計 画	
<p>次のようなテーマをとりあげる。</p> <p>1. 自己紹介 2. 家族 3. 高校生活 4. 大学生活 5. いじめ 6. 幼稚園実習 7. スポーツ 8. 死刑廃止問題 9. 憲法 10. エイズ 11. 趣味 12. 夫婦別姓 13. 地球温暖化 14. 携帯電 話 15. 人権</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>テスト、小レポート、出席状況を総合して評価</p>	

【授業科目名】 総合英語 I - 1、2 (保育科)	【担当者】 菊地恵子
【開講期】 1 年 前期・後期	
【授業目標】 幼稚園や保育園の様々な場面で使われる英語表現で構成されたテキストを使用する。英語圏の児童が話す自然な英語を練習することで、生きた英語に触れ、日常的な英会話の力を培うとともに、児童が育つのにふさわしい人間関係、環境についても認識を深めて欲しい。	
【テキスト・参考書】 「保育の英語」 森田和子著 三修社 ¥1,700 他にプリント教材	
授 業 計 画	
<p>1 保育園の生活を題材に、数人の子どもたちを主人公として物語り仕立てになった短い本文を読み、テープを聴く。英文の構造を理解しながら味わって読むとともに、自然な英語のイントネーションを学ぶ。</p> <p>2 関連する単語、熟語、役に立つ表現などを覚え、対話練習する。</p> <p>3 英語で、マザーグースなどの子どもの遊び歌やゲームを、実際に身体を動かしながらやってみて、英語圏の子どもたちの情操を育てる文化に触れる。</p> <p>4 夏休みの課題として、自分の好きな英語圏の有名人、または英語の歌について、英文レポートを作成する。</p> <p>5 後期には、現代の子どもを取りまく問題のなかで、自分の研究テーマとしたいことを選び、関連した問題を扱った新聞や雑誌の英文記事を個人またはグループで読み、レポートを作成して発表する。</p>	
【評価方法】 平常点 [出席状況、自主学習、質問、意見発表等]、試験結果、レポート内容を総合して行う。	

【授業科目名】 総合英語 I - 1、2 (保育科)	【担当者】 清野茂子
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】 保育現場を英語の教材としてとらえた教科書です。 保育者と、子供や保護者との間での日常生活に欠かせないコミュニケーションを、英語でどのように表現するかを学んでほしい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>English for Nursery Schools and Kindergartens Sanshusha; ¥1700</p>	
授 業 計 画	
<p>テキストは、子供たちの園生活での様々な場面を扱った内容で20章から成り立っています。 各章の本文は必ず読んで自分なりに理解して授業に出ることを前提に一年間を通して内容を楽しみます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席日数、平常の小テスト、および期末テストを総合して評価する。</p>	

【授業科目名】 総合英語 I - 1, 2 (保育科)

【担当者】 藤田久美子

【開講期】 1 年 前期・後期

【授業目標】

今まで培ってきたはずの英語の基礎的な能力を再確認し、主にリスニングとリーディングの能力強化を中心に、4技能を少しでも高めるようにしたい。

【テキスト・参考書】

① リスニング用教材 … 未定。(開講時に指示あり)

② Mini-World 98 (Special Textbook Edition)
(Macmillan Languagehouse)

授 業 計 画

- 。多分訳読中心であったであろう高校の時の英語とは少し異なり、オーラルな面での能力の獲得を積極的に行いたいと思っている。発音、基本的な文法事項、よく用いられる日常表現等を確認しながら、リスニングについても、リーディングについても、内容を正しく理解し、質問に答えられるようにしたい。
- 。授業は演習形式であるので、毎回必ず出席し、熱心にタスクに取り組んでもらいたい。

【評価方法】 出席状態、毎回の練習問題の結果、授業出席(積極性)等を総合的に考えて、評価基準とする。

【授業科目名】 選択語学 I-1 海外語学研修	【担当者】 中島好伸
【開講期】 1年 前期の事前指導、8月にLeeds Metropolitan Universityにおいて英語研修	
【授業目標】 イングランド中部のLeeds市でホームステイして、英国の家庭生活を経験しながら、上記大学において3週間の英語研修を行う。この経験を通して、英国の文化と生活に必要な英語力を身につける	
【テキスト・参考書】 未定（開講時に指示）	
授 業 計 画	
<p>1. 事前指導（出発までに5回行う）では：</p> <ul style="list-style-type: none"> a) イギリスの文化・生活に関する基本的な表現を学ぶ。 b) 生活、習慣についての予備知識を学ぶ。 c) 研修に必要な情報や注意事項を与える。 d) 旅行会社からの情報を伝え、必要なパスポート等の手続きをする。 <p>2. 現地（8月6日出発8月31日帰国）では：</p> <ul style="list-style-type: none"> a) クラス分けをして効率的に学べるようにする。 b) 午前中に2コマ、午後は主としてキャンパス内外での見学、調査。 c) 週末にバスでexcursionを行い、歴史、文化、自然などに接する。 d) 家庭では宿題をしたり、家族と団らんして英語だけの生活をする。 e) 大学での研修後、ロンドンに戻り、市内見学をする。 	
【評価方法】 1. 大学での研修は現地の教員が評価を行う。 2. 参加状態を記録しておいて帰国後、1.と合わせて総合的に評価する。	

【授業科目名】 スポーツA	ダンス	【担当者】 飯塚真穂
【開講期】 1 年 前期		
<p>【授業目標】</p> <p>エアロビクスダンスをアレンジした振付を中心に、ダンスを通して健康で美しい身体、積極的な行動を可能にする身体をつくることを目標とする。</p>		
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>使用しない。</p>		
授 業 計 画		
<p>1. ストレッチ+腹筋のトレーニング</p> <p>より大きく自由に体を動かせるように柔軟性を高める。 正しい姿勢の保持、腰痛の防止にも有効な腹筋力を強化する。</p> <p>2. ダンスプログラムの練習</p> <p>歩く、走る、跳ぶといった日常的な動作を基本とするステップで構成された3～4分程度の短い振りつけを覚える。幼児向けに応用できるようなものを含め、2曲程度を予定。 使用曲：“Try Me”，“Season”など 応用：グループで隊形変化をつける。</p> <p>3. ダンスプログラムの作成と実演</p> <p>簡単なものから難しいものへ、ゆっくりとした動きから速い動きへという全体の構成を考えながらダンスプログラムが創れるよう、グループごとに1曲（または曲の一部）を創作し、発表する。</p> <p>※必ず運動可能な服装に着替えて出席すること。</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>実技テストを行うが、出席点と参加態度を特に重視する。</p>		

【授業科目名】 スポーツA	バドミントン	【担当者】 松岡由紀子
【開講期】 1 年 後期		
【授業目標】 ・スポーツをすることによって、運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。 ・運動技能と知識の習得。		
【テキスト・参考書】		
授 業 計 画		
<p>技能練習とゲーム</p> <p>【バドミントン】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、グリップとシャトル慣れ 2、ストロークの練習 3、サービスの練習 4、集団技能の練習 5、ゲームとルール、審判法 <p>【卓球】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ボール慣れ 2、素振りと正しいフットワーク 3、フォアトップ打ち、バックショート、ツッツキの練習 4、どのコースでも打てるようにする 5、正規のサービスが出せるようにする（変化サービスも） 6、各種打法の練習 7、ゲームとルール、審判法 		
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席重視）とゲーム中に採点</p>		

【授業科目名】 スポーツA（保1）バレーボール	【担当者】 池森隆虎
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>6人制のゲームを楽しめるための技術、戦術、ルール、マナー等を身につける。</p> <p>前半は初心者を対象にした基礎的な技術のレッスン、ミニゲーム、ソフトバレーボール等による応用技術、戦術の獲得へと移行し、早い段階からゲームを行い、ルール、ポジションの理解を深めたい。後半はリーグ戦を行い、バレーボールの楽しさを体験してほしい。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと実習のねらい <ol style="list-style-type: none"> (1)実習のねらい、展開、評価などについて (2)基本用語、基礎技術、ルール等の説明 2. 基礎技術、技能の獲得 <ol style="list-style-type: none"> (1)ボールに慣れる、ボールの動きに慣れる (2)基本動作 <ul style="list-style-type: none"> レシーブ（オーバー&アンダー） スパイク サービス (3)複合練習と簡易ゲーム 3. 講義（応用技術獲得の手がかりとして） <ol style="list-style-type: none"> (1)ルール、マナー及び試合の進め方について (2)戦術、ポジショニングの反省 4. ゲーム技術の習得（6人制） <ol style="list-style-type: none"> (1)ソフトバレーボールによるゲーム練習 (2)ゲームの実践（戦術、ポジション、コンビネーション） (3)ゲームの審判法の習得 	
<p>【評価方法】</p> <p>評価点（50点）... 実習参加への積極性、協調性、個人技能の向上（実習初回から終了までの過程における個人の上達度）、ルール、マナーや実習内容の理解度</p> <p>出席点（50点）... 欠席-6点、遅刻（15分まで）-2点、早退-2点</p>	

【授業科目名】 スポーツB スキー	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スキーの特性について理解するとともに、その知識と技能（歩行、滑走、回転など）について習得する。 2 雪上環境に対する対処能力を高める。 3 スキーに親しみ愛好する態度を伸ばす。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 全日本スキー連盟編：日本スキー教程、スキージャーナル社、1994年。</p>	
授 業 計 画	
<p>今日、日常生活の場から自然が失われ自然との共存が課題となってきた。自然環境を活用したスキーは、スポーツとしてだけでなく、健康の増進やレクリエーションとしてもきわめて効果的である。しかし、雪上でのスキーは、さまざまな自然条件の影響を受けやすく（事故災害）、また、技能の習得において個人差が生じやすい。</p> <p>そこで、自然に触れ合うことの楽しさや喜びを十分に体験できるように、自由練習や個別指導を重視する。また、斜面や雪質の状態に応じた適切な技能と判断力が得られるように技能クラス別の指導を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、日 程 1999年1月下旬 計画・準備 2月下旬 スキー実習（3泊4日） 2、場 所 学内及び上越国際スキー場（新潟県塩沢町） 3、参加者 学生35名、教員3名 4、内 容 計画・準備 スキー実習 第1日目 移動、スキー実技 第2日目 スキー実技、講義 第3日目 スキー実技、評価 第4日目 スキー実技、移動 実習内容 歩行、登行、方向転換、滑降 回転（プルークボーゲン、プルークターン、パラレルターンなど） 用具のメンテナンス 5、費 用 約50,000円（交通費、宿泊費、保険料など） *他に昼食費が必要となる。 *スキーセット、ウエアーをレンタルする場合、約8,000円、約6,000円が加算される。 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（意欲・努力、実技等）</p>	

【授業科目名】 健康科学	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間性豊かで健康的な生活を確立するために必要な能力と態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日健康問題について ・ 健康の破壊と成立について ・ 健康の設計と処方について 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 使用しない</p> <p>参考書 宇土正彦・正木健雄監修：青年の健康と運動、現代教育社、1995年。 国立大学等保健管理施設協議会編：学生と健康、南江堂、1996年。</p>	
授 業 計 画	
<p>人間性豊かで健康的な生活を営むためには、健康問題の本質を正しく捉え、解決に向けての適切な判断力と実践的な行動能力が必要となる。また、今日の健康問題は、その多くが社会的な環境に大きな影響をうけている。そして、その解決には、人間の生物学的側面や行動学的側面はもとより、環境的側面及び保健医療体制的側面を抜きにしては考えられない。</p> <p>授業では、このような健康観に立って、疾病予防と健康増進の学問としての健康科学の知見や考え方について解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、健康科学の概念 2、今日の健康問題 3、疾病の疫学と健康の成立 4、主体と健康 5、環境と健康 6、保健医療体制と健康 7、保健行動と健康 8、健康問題Ⅰ（医学的、生物学視点から） 9、健康問題Ⅱ（心理学的、社会学的視点から） 10、健康問題Ⅲ（行動科学的視点から） 11、健康問題Ⅳ（保健医療体制、保健行政の視点から） 12、健康生活の設計と処方 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（ペーパーテスト）及び平常試験（レポート、平常点）</p>	

【授業科目名】 スポーツ科学	【担当者】 岡田光弘
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツを見て楽しめるようになること、 　　スポーツをしてみたいくなること ・ スポーツを社会現象として、批判的に見る眼を養うこと 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>AERA MOOK「スポーツ学のみかた」朝日新聞社</p> <p>日本プロテニス協会編「テニス教本」スキージャーナル 1994</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のようなトピックを扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツと科学：スポーツ科学の全体像 2. ジャンプ競技と揚抗比 3. ポブスレーとクロストレーニング 4. スポーツの技術・道具の変化と科学 5. 滑降競技と乳酸 6. 滑降競技と環境問題 7. ドーピング問題と日常生活 8. スポーツとアイデンティティ：ラクロス、カーリング 9. スポーツとルール 10. スポーツと遊び 11. スポーツ解説と分析 	
<p>【評価方法】</p> <p>各時間ごとの提出物と期末のレポートで評価する。</p>	

專門教育科目（1年）

【授業科目名】	社会福祉概論	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	1年 前期		
【授業目標】	<p>社会福祉とは何か、社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあつたらよいかをこどもたちや、障害者、高齢者をはじめとした住民の生活実態との関係で学びます。とりわけ、こどもたちや親、障害児・者の真の願いに心を寄せ、保育者に求められる援助とはどうあつたらよいか考える力を養います。</p> <p>保育を学ぶものにとって必要な基本的なものの見方・考え方の基礎を学び、後期の児童福祉論、2年次の社会福祉方法論へと結びつけることを目標にします。</p>		
【参考図書】	<p>「職安通りの夜間保育園」 (ひとなる書房・・・丹羽洋子著)</p> <p>「豊かさとは何か」 (岩波新書・・・^{アルカ}碑坂淑子著)</p> <p>「心病める人たち」 (岩波新書・・・石川信義著)</p> <p>その他、授業の中で適宜紹介します。また、参考にする論文のコピーを授業で配布します。</p>		
【授業の進め方】	<p>上記授業目標にそつて、授業の度にプリントを配り、それに基づいて授業を進めていきます。</p> <p>授業のはじめと終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。(7月はじめにまとめて返却します)</p> <p>授業は、定時に始めます。講義は70分程度でおさめる努力をします。最初の7分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認をします。授業の合間になるべくビデオや小グループによるディスカッションを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。またアンケートにより受講学生の声を授業に反映させていきたいと考えています。クラスによつては1限目ですが、遅刻しないよう頑張つていただきたいと思います。</p> <p>70分授業を進めるためには、事前自己学習も必要ですし、補講も含めた授業回数の確保は必要となります。学生のみなさんと共に力を合わせ、迫力ある、心に残る授業をつくつていきたいと願つています。</p>		
【評価方法】	<p>毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況(平常点)20パーセント、定期試験(レポートです)80パーセントの総合点で評価します。</p> <p>したがつて、出席、遅刻は非常に重視します。</p>		

【授業科目名】 児童福祉	【担当者】 中山正雄
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>①児童福祉問題に関する現状を知り、その背景を学ぶ</p> <p>②児童福祉施策の現状と法・制度のしくみについて学ぶ</p> <p>③児童福祉政策の動向と展望を学ぶ</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：浅井春夫『子ども虐待と性教育』大修館書店</p> <p>養護施設は今編集委員会『いつか愛を知る日のために』ひとなる書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の子どもの現状 子どもの権利条約の視点から子どもの現状を概説する 2. 養護・保育問題と国民生活の変容 養護・保育問題が生まれる社会的背景について説明する 3. 施設入所児童の現状と援助のあり方 児童養護施設の入所児童を中心に問題を抱えた児童の現状と援助のあり方について説明する 4. 障害問題とノーマライゼーションの課題 障害のとらえ方とノーマライゼーションの考え方及びその現状と課題について説明する 5. 児童問題をめぐる家族と地域社会 家族の現状をその機能の変化を時代と生活実態、地域社会の変容から捉え、地域社会のあり方を説明する 6. 児童福祉の歴史（戦後史を中心に） 社会福祉法人の設立と役割を、法・制度を中心に概説し、措置制度の意義を説明する 7. 児童福祉の法体系 児童福祉法の理念、法体系を説明すると同時に課題について説明する 8. 児童福祉の機関と施設 児童相談所と児童福祉施設の基本機能と、機関・施設の利用について説明する 9. 児童福祉の仕事とは・・・社会福祉労働論の現代的課題 児童福祉を支える各職種の内容と役割、従事者の資質について説明する 10. 児童福祉の課題と展望 児童福祉改革を概説し今後の課題と展望を考える 	
<p>【評価方法】</p> <p>簡単な中間レポートと定期試験</p>	

【授業科目名】 保育原理Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 (1) 保育の大切さを知ること。 (2) 保育者の役割りの重要性を知ること。 (3) 子どもについて知ること。	
【テキスト・参考書】 「新保育原理」萌文書林 岡本富郎他著	
授 業 計 画	
1. 子どもはどのような存在か。 2. 保育とは何か。 3. 幼稚園とは何か。 4. 保育所とは何か。 5. 幼稚園、保育所の歴史（外国、日本） 6. 保育者とはどのような存在か。 ◇ 上記のことを具体例を紹介しながら記す。 ◇ ビデオも上映し、解説する。	
【評価方法】 テスト	

「授業科目名」 保育原理 I	「担当者」 村田保太郎
「開講期」 1年 後期	
<p>「授業目標」</p> <p>保育とは何か、保育の基本や原理的な問題などについて理解を深め、自己の保育観を形成していく上での基礎・基本について学ぶ。同時に保育の進め方の原則、保育内容・方法の概要についての知識・理解を得る。</p>	
<p>「テキスト・参考書」</p> <p>「保育原理」I 保母養成講座・改定版 全国社会福祉協議会</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>保育理念について学ぶと共に、幼稚園・保育園における保育の在り方について基本的な理解を深める。また、保育所保育指針について構造的に考究し、その考え方と内容について学ぶ。同時に、現在の保育需要の多様化と社会的背景と保育制度や福祉についての情報を伝え現実的・実地的な理解を深める。そのために、テキストによる講義、問題に対する討議、OHP, VTR, などによって授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の本質 2 保育の場 (家庭、保育施設、) 3 保育所保育の原理 (特性、目標、方法、保育の環境) 4 保育所保育の内容 (内容構成、ねらい、内容、領域) 5 保育所の保育計画 (指導計画、種類と役割、作成) 6 3歳未満児の保育内容と指導計画 7 3歳以上児の保育内容と指導計画 8 保育形態・評価 9 健康・安全上の留意事項 10 特別保育事業実施上の留意点 11 家庭、地域などとの提携 12 保育所保育指針、幼稚園教育要領 	
<p>「評価方法」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業の進行状況に伴う、小レポート 2、期末にペーパーテストを行う 	

【授業科目名】 教 育 原 理	【担当者】 黒 田 瑛
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：「教育原理」（北大路書房 秋山和夫他編）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>講義の中心となる主な事項は下記の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の教育の現状と問題 2. 人間と教育 3. 教育の意味と目的 4. 教育の場 — 家庭、園、学校、社会 5. わが国の教育の歴史 （主として明治以降） 6. 同 上 7. 第二次世界大戦後の教育の歴史 8. 教育基本法の成立とその思想 9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領 10. 幼稚園教育要領 11. まとめ 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末に試験を行う</p>	

【授業科目名】 教育原理	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 幼稚園、保育所での保育のあり方の原理を知ること。 そのために保育思想、発達観と教育・子どもとの関わり方について知ること。	
【テキスト・参考書】 「教育と学校を考える」(2章) 勁草書房 「新保育原理」(萌文書林) 岡本富郎他著	
授 業 計 画	
<p>前期の同科目に引き続き、幼稚園、保育所の保育の在り方の原理を理論的に話す。</p> <p>その際、実際の保育の危険性について語り、子どものためのよりよい保育の在り方のために、保育の思想、発達感と保育の諸側面について話す。</p> <p>1年後期なので、深い理論を語るのも、気を引き締めて授業に向かってほしい。</p> <p>尚、秋の保育所実習に向けて、ヨーロッパ、日本での保育所の歴史について保育思想と共に話す。</p>	
【評価方法】 テスト	

【授業科目名】 発達心理学	【担当者】小松 歩
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育者として子どもと関わる際に必要な「発達」に関する基礎知識を学ぶことをとおして、「発達していく」子どもの姿を、一人ひとりの子どもに即して的確にとらえ、援助のあり方を考えることができる力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：授業のなかで適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>「子どもが好きだから」という理由だけで保育をすることはできない。</p> <p>多くの学生が初めて学ぶであろう「発達心理学」は、これから子どもを育て、関わっていく上でもっとも重要な基礎的科目の一つといえる。</p> <p>人は生まれてから死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通して、その可能性を実現していく。この過程で生じる変化を発達と呼ぶ。子どもと関わる場合には、全年齢を見通したライフ・サイクルの視点から、その人の現在の姿・行動がどうあるべきかを判断し、適切な援助をすることが求められる。</p> <p>本講義では、とくに乳幼児期・児童期・青年期の発達の基本的特徴とそれをもたらす要因について概説し、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。ビデオ教材なども利用し、子どもたちの具体的な姿も参考にしながら、個々の子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。</p> <p>およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味、「生涯発達心理学」 ②発達のメカニズム ③乳幼児期の子ども（0～2歳）の発達の特徴 ④対人関係の発達（愛着行動を中心に） ⑤ことばの発達（ことばを獲得するための基礎） ⑥幼児期前期の子ども（3，4歳）の発達の特徴 認知、自己認識、思考の手段としてのことばなどの特徴 ⑦幼児期後期の子ども（5，6歳）の発達の特徴 認知、行動調整の手段としてのことばなど ⑧学齢期の子どもの発達の特徴 ⑨青年期以降の発達の特徴 自己意識、性役割など ⑩発達と不適応 ⑪発達評価 	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験による</p>	

【授業科目名】 教育心理学	【担当者】 堀江 まゆみ
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 子どもがいかに学び（学習）いかに人格的発達をするかについて基本的な理解を深め、保育・教育実践の中でよりよい育ちを促すための援助・指導のあり方を考えることを目標にする。	
【テキスト・参考書】 <p style="text-align: center;">参考書 東洋・柏木恵子編著「教育の心理学」</p>	
授 業 計 画	
<p>人間は社会的存在であり、環境との相互作用の中での学習によってその発達をとげる。教育・保育の実践は、この交互作用がよりよく実現するように行う働きかけつまり援助や指導でもある。本講義では、子どものよりよい発達を促すために保育者に求められている援助のあり方を考えていく。子どもの発達としては、個性化をめぐる問題と社会化をめぐる問題がある。前者については特に、子どもが「わかる」ということをどのように獲得し生活への認識を広げていくかについて、認知発達、学習、知能の発達の側面からとらえ、それに対する保育者の援助のあり方や保育実践について考える。また、後者の社会化については、主に集団における仲間関係の形成からとらえ、よりよい集団をつくる援助や実践はどのように進められるかを考える。また、実践に関わる問題として発達評価の問題や集団のなかで特に援助の必要な子どもたちへの理解、あるいは早期教育など現代の教育的問題についても適宜取り上げ討論の場としたい。</p> <p>主に、以下のような項目で進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育・保育における援助とは－教育心理学的視点 ② 環境と人間形成－「発達可能性」をめぐる ③ 認知の発達と学習－子どもが「わかる」ということ ④ 動機とは－意欲と自主性の発達とその援助 ⑤ 仲間とともに－集団における人間関係とその援助 ⑥ 教育・発達評価とは－発達評価と保育実践評価 ⑦ 保育者の役割と援助について考える ⑧ 発達に遅れを持つ子どもたちの理解とその援助 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 平常授業のなかで整理テストを適宜行う。 ② 期末試験 	

【授業科目名】 小児栄養	【担当者】 中澤弥子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 栄養は、成長期の小児が健康で正常な心身の発育を遂げるための核の一つである。発育段階に応じて適切な栄養素を含む、おいしい食事内容及び人間らしい食行動がとれる食習慣を育てる基礎的な栄養と食事の知識を理解させる。また、保育者自身が主体的に小児の食生活を指導できる基礎をつくることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>二木 武、北 郁子、高野 陽、水野 清子著 「小児栄養」 医歯薬出版</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>毎日食べている食事が体内でどのように変化し、どのような役割を果たし、排泄されるかに重点を置き、各栄養素の生理機能の独自性と有機的なつながりを理解させる。また、各栄養素を含むたべもの日本人の食事様式の関係にふれ、日常の食生活の在り方を考えさせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児期栄養の重要性と特性 2 発達栄養生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 摂食機能の発達 (2) 消化・吸収 (3) 排泄 3 小児の栄養代謝とたべもの <ol style="list-style-type: none"> (1) 栄養素の分類 (2) 栄養素の機能と小児期代謝とたべもの関係 4 小児の栄養所要量と食品構成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児の栄養所要量の見方と考え方 (2) 栄養所要量の個人化 5 保育所、保育指針にみる食事の考え方と問題点 6 小児栄養の課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験とレポート</p>	

【授業科目名】 保育内容総論	【担当者】 佐々加代子・小松 歩・喜多村純子
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は通年科目であるが、9月に集中演習を行なうので、1年の半期で終える。入学後間もない保育科学生が、いずれ専門的各論を学ぶ前に「子どもおよび保育」を学ぶことに対する関心をより広げ、より深める動機づけとなることを目標に開講している。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考書 ①高杉自子・森上史朗他著 「保育内容総論」東京書籍 ②大場牧夫・民秋言・吉村真理子編著 「保育内容総論」萌文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業は、保育を多角的に理解することをガイドするために、心理学分野・言葉の分野・保育現場から、それぞれ一人ずつ計3名の教員によって進められる。講義内容はおよそ以下のとおり。</p> <p>■講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに ——この科目の方針、他の科目とのつながりを知る—— 2. 幼稚園・保育所の保育の共通理解について (参考文献 ② 序章をもとに) 3. 今、幼稚園・保育所に求められていること 4. 子どもを知ろう——幼稚園の現場から—— 5. 子どもと保育者——大人・保育者の役割—— 6. 7. 子どもの行動——行動類型と特性①—— 8. 子どもの行動——行動類型と特性②—— 9. 子どもの行動助成——保育援助の内容と方法 総論—— 10. 子どもの行動助成——幼稚園保育における援助の内容と方法—— 11. 子どもの行動助成——保育所保育における援助の内容と方法—— 12. まとめ・教員3名の合同授業 集中演習のオリエンテーション <p>■演習</p> <p>実際に保育現場で繰り広げられる子どもの活動や保育実践、環境を事例としてグループで推論・観察・考察を行なう。1単位分を集中演習形式で学修する。</p> <p>第1日：学内での講義と演習 第2日：幼稚園あるいは保育園を選択して演習 第3日： 同 上 第4日：学内で考察・まとめを行なう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①平常点 ②演習レポート</p>	

【授業科目名】 健康（保健行動）	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な能力と態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康問題について ・子どもの保健管理について ・子どもへの保健教育について ・保育者の健康問題について 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 内山 源編著：小児ための小児保健ハンドブック、ぎょうせい、1998年。 参考書 米谷光弘編著：健康 理論編、保育出版社、1995年。 小林芳文編著：乳幼児健康保育学、福村出版、1993年。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園や保育所で指導展開される「健康」領域のうち保健分野を取り扱う。授業では、「どのようにすれば、子どもの健康を守り育てることができるか」を課題として、その基礎的な知識と技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①小児健康論（今日の健康問題と子どもの健康）、②保健管理論、③保健教育論（教育内容論、教材論、指導技術論など）である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、子どもの健康問題 2、保育者の健康問題 3、保育施設における保健活動 4、保健管理の内容と方法 5、保健管理の実習（主として環境管理） 6、保育施設における保健教育 7、保健教育における指導内容、教材及び指導技術 8、保健の授業づくり実習（模擬授業を含む） 	
<p>【評価方法】</p> <p>2回のペーパーテスト、及びレポート（保健教材）、平常点（学習意欲）</p>	

【授業科目名】 言葉Ⅰ（言語行動）	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>保育者養成のための言語1998年版（私製）、言語習得と人間関係、犀書房</p>	
授 業 計 画	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題3含む）を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と言語：言語の定義、機能 2. ことばとキャッチボール 3. コミュニケーションの基本的過程 4. 日本語の特徴、敬語 5. 言語発達の標準像（0～6歳まで） 6. 文字学習能力の発達 7. 言語発達に関連する人間関係の要因 8. 言語指導の実際：言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど） 9. 障害児の言語指導：発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり・吃音、失語症 10. よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法 11. 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の行動観察記録（レポート） 2) 日案（レポート） 3) 日案からの主活動の展開：保育者としての保育場面の疑似体験、2回 4) 発達助成論 12. 保育者養成における“言語”教育 13. 研究法 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、平常点（ミニ演習）、レポート3、テストによって行う</p>	

【授業科目名】 乳児保育Ⅰ	【担当者】 鈴木佐喜子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育の現状を概観し、乳児保育の基本についての理解を深めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 乳児保育研究会編 『資料でわかる乳児の保育新時代』 (ひとなる書房)</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児の保育は、保育の基盤・原点である。乳児期は、人間の一生のスタートであり、発達の重要な時期である。同時に、乳児保育は、親子の保育園生活の始まりでもある。今日では、乳児保育も普及しつつあるが、今なお、「3歳までは母親の手で」、「赤ちゃんを保育園に預けるのはかわいそう」という考え方も根強く存在する。また、親の労働実態の変化、家庭の変貌の中で様々な問題が乳児保育に集中的に表れることにもなっている。これらの点を、以下の項目にそって検討するなかで、深めていきたい。</p> <p>(1)乳児保育をどうとらえるのか 乳児保育をめぐる思想・理論的問題</p> <p>(2)乳児期の子どもの発達と保育 0歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 1歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 2歳の発達の特徴と保育</p> <p>(3)乳児保育の内容と方法</p> <p>(4)乳児保育の歩みと現状、課題</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎理論）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動がスムーズにすすめられる様に、という事を目標にしている。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : 下総皖一「楽典」</p>	
授 業 計 画	
音	音の種類と性質
<p>譜表Ⅰ（記譜上の約束ごとの理解）</p> <p>音 名</p>	<p>五線・加線・音部記号・音符・付点音符・複付点音符・休符 付点休符・縦線</p> <p>拍子の数え方・全休符の使い方・変化記号・速度記号・強弱記号 シンコペーション・連符・タイ</p>
音 程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程
音 階	<p>長音階：調号（＃、b）４個迄</p> <p>短音階：調号（＃、b）４個迄（自然短音階・和声短音階・旋律短音階）</p> <p>音階各音の名称（主音・下屬音・屬音・導音）等</p>
調	調と調号 調の相互関係
移 調	<p>学生がよく知っている曲等を実際に移調し、いろいろなパターンを こまかく指導する</p>
和 音（伴奏づけの基礎としての和音の理解）	<p>三和音・主要三和音・属七の和音</p> <p>主要三和音の転回・属七の和音の転回</p>
譜表Ⅱ（記譜上の約束ごとの理解）	<p>省略法・反復記号・Da Capo(D. C)・Dal Segno(D. S)・スラー・フェート アクセント・トリル・フェルマータ・装飾音符と装飾記号・トリル・発想記号 等</p>
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験の成績</p>	

[授業科目名] 音楽Ⅰ（基礎技能）（ピアノ）

[担当者] 下記参照

[開講期] 1年前期・1年後期

[授業目標] “Piano method”を中心に基礎テクニックを学び楽器による表現力を習得し音楽的理解と教養を深める。そして将来の保育者としてより高い専門性を身に付けることをねらいとする。尚、授業で使用するメソッド以外のピアノ曲集については、担当教員の指示に従うこと。

[テキスト・参考書]

テキスト 「Piano method」 鷺見五郎著 共同音楽出版社

参考書 チェルニー100番、ソナチネ、ソナタ・アルバム、ブルグミュラー25番他

授業計画

(概説) 多くの楽器の中で何故ピアノを学ぶのでしょうか？子どもの集団に対して説得力のある音楽教育や保育をするには、可動性のあるギターやアコーディオンのような楽器の方がいいのではないのでしょうか？ピアノは（アコーディオンもそうですが）旋律と伴奏を同時に奏することの出来る楽器です。しかも10本の指を自在に走らせることができまるやかな音色と最高に広い音域を持つ楽器です。オーケストラ曲を全体のバランスを損なうことなく編曲再現出来るのも（シンセ）を別にして、ピアノしかありません。約200本の弦から生じる倍音の数も他の楽器とはくらべものにならない多さですから、子どもの精神に及ぼすプラス効果も大きいと考えて良いでしょう。最初の発明者はメデイチ家の楽器管理係のバルトロメオ・クリストフォリ等で現在の名称はシピオーネ・マッフェーイが1711年出版物中で用いた“強弱の出せるハープシコード”を短縮したもの。色々の理由から音楽の王者“声楽”に対して比肩できる楽器は“ピアノ”ということになると思います。ついでにつけ加えると、就職試験にはかなり高度のピアノ演奏や幼児曲の弾き語りが要求されますから、最低第Ⅳグレードをめざして頑張ってください。さて、いい音楽というのは次の①と②がバランスよくまざり合った時に出現します。

① テクニック・・・目に見える。他人が評価しやすい。

② 音楽性、感性等・・・目に見えない。評価しにくい。

①と②は相互に作用し合いながら進歩、充実して行く関係にあるので初歩から上級までの各段階で「もうこれでよい」ということはありませんが、特に初心者と中級程度の人には自分の持っている“歌心”を上手に表現できるようにテクニックの確実な習得をめざして努力してください。

[単位取得] =①第Ⅲグレードの曲および音階を試験で合格する②3回行ういずれかの試験で幼児曲を弾いて合格する。①と②両方の合格をもってピアノの単位を取得できる。

①の試験曲は次の2曲のうちの到達できた曲を選ぶこと(Bの曲の方が得点は高く63点～70点まで配点)

A “見知らぬ国”

B “ワルツ”

I～Vグレードまでのグレード毎に得点が高くなるがⅢグレード以外の試験曲についてはそれぞれの担当教員に聞いて準備をすること

[担当者]

秋山治子・稲村敬子・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子
瀬戸山起子・関根美和子・平さわ・西沢和枝・西山裕子・野村真理子
福島省吾・藤島恵子・舩本清美・山本山起子(2姓のみ)・岡益代(1姓のみ)

[評価方法]

実技グレードテストを半期ごとに実施し、最終的に第Ⅲグレード以上の合格者が成績評価の対象になる。各期の試験は全員が受験しなくてはならない。また、2年次の最終試験以外は、追、再試を実施しないから気をつけること。

ピアノの最終成績はピアノ・カードに100点満点で記載されるが教科[音楽Ⅰ]の成績評価は[ピアノ][声楽][基礎理論]の総合評価である。尚、上段に記した評価点や受験の仕方に関しては大まかな内容を示してある。

【授業科目名】 音楽Ⅰ（声楽）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループで基礎的なやさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : ソルフェージュ : コンコーネ50番</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践</p> <p>② C-dur, F-dur, G-dur, D-dur, a-moll等の練習曲を、スムーズに譜読み出来る様にする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌える様にする。</p> <p>* 1 講時につき ソルフェージュ 15 曲 2 講時につき コンコーネ50番 1 曲 } をマスターする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と出席点</p>	

【授業科目名】 図画工作 I	【担当者】 枝常 弘・八木 紘一郎・花原 幹夫
----------------	-------------------------

【開講期】 1年 前期・後期

<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期では、保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とする。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行なう。(枝常・花原) ・後期では、子どもの表現行動を総論的に概観し、子どもの造形表現の諸特性を理解する。(八木)

<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『アート（造形）にチャレンジ』…枝常・八木・花原（すずき出版）</p>
--

授 業 計 画

<p>以下のテーマについて授業を展開していく。前期と後期、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <p>◆前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か 2. 基本的な素材とその使い方について 3. 基本的な道具とその使い方について 4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について 5. 平面を描く、つくる基本について 6. 立体を描く、つくる基本について 7. 造形と科学の関係について <p>◆後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感性と表現について 2. 見える表現と見えない表現について 3. 子どもが表現しようとしている意味について 4. 子どもの表現の源泉について 5. 子どもの表現の発達について 6. 子どもの表現を援助する理由と目的について
--

<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価する</p>
--

【授業科目名】 ゼミナールⅠ

【担当者】 専任教員

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

- ①文献購読の方法について学ぶ
- ②問題意識の形成をめざす
- ③集団学習の楽しさと厳しさを体得する

【テキスト・参考書】

ゼミ開講時に指定する

授 業 計 画

ゼミナールⅠは、1年半のゼミ学修期間のはじめの半年間のゼミナールである。夏休み前には、学生がどのゼミナールに所属するのかを決めることになる。その決定を自信をもって選択できるようにするために、以下のような計画をしている。

まず5月におこなわれる八王子オリエンテーションセミナーで、各教員が開講するゼミ形式による学習を体験することになる。

また6月には、ゼミナール説明会がおこなわれる。そこでは各教員によるゼミテーマの説明と教育方針が説明される。

その他に、ゼミ室訪問期間などを設けているので各教員に直接会って話を聴く機会も持てることになっている。

こうしたチャンスを生かして、自ら学びたいテーマと課題を鮮明にしていくことでゼミナールの選択をすることがもとめられるのである。この半期のゼミをステップに2年のゼミナールⅡで、さらに本格的なゼミナール活動をおこなうことになる。

白梅学園短期大学だからこそ体験できるゼミナールで大いに学ぶためにも、自らの真摯に学ぶ姿勢と目標をできるだけ早く創ってほしい。そのことが充実したゼミナールを創っていくことになるのである。

どうぞ本当に入りたいゼミを選んで、1年半のゼミナール活動を満喫してください

【評価方法】

ゼミ活動への参加状況

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 小松 歩・加宮 葵 ほか
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 2年次に実施する「幼稚園実習」とともに、幼稚園教諭二種免許状を取得するための必修科目である。幼稚園実習をとおして、幼稚園教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：『実習ガイドブック』・『幼稚園実習日誌』必携 参考資料として、各実習園の施設要覧・入園のしおり・園だよりなど適宜使用する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1年次の実習は、6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知ってほしい。</p> <p>【1年次】 見学・観察実習のテーマ</p> <p style="padding-left: 40px;">幼稚園の「日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ ② 保育者の活動について学ぶ ③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては、学内での事前実習オリエンテーションで詳しく説明する。 オリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p style="padding-left: 40px;">① 幼稚園実習とは（全般的説明） ② 幼稚園の現場から ③ 実習日誌の書き方 ④ 実習に行く前に（心構えや諸注意事項）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 学内オリエンテーションへの出席／受講 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目名】 実習指導（保育所実習Ⅰ）

【担当者】 鈴木佐喜子・近藤正樹 ほか

【開講期】 1 年 前期・後期

【授業目標】

保育資格取得には学内の関連教科のほか、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習を必修とする。実習に入る前に、保育所の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、実習日誌の書き方などを学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携

授 業 計 画

今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変る場合もある。

《実習前》

- I. 事務手続オリエンテーション（全実習）
実習園の一覧表、実習生履歴（履歴書）、身体検査書（健康診断）、細菌検査、実習日誌の提出・返却など実習に関わる一連の事務手続の説明。
- II. 実習園の配属
学生が相互に話し合い（教員が割り当てる場合もある）、各自の実習園を決定する。
- III. 1. 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的（講義）
実習の目的、実習の意義、実習のテーマ。「保育所実習Ⅰ」関連教科と授業内容の概説。
2. 実習日誌の書き方
1) 日誌を書く理由、2) 日誌を書く目的、3) 日誌を書く上での諸注意、4) 記録のポイントなど。
3. 実習の心構えと具体的注意事項
1) 実習への抱負や課題、2) 実習に臨む姿勢（服装・健康管理など）。
- IV. 保育における子どもの生活と保育の流れ（講義）
保育所の職務内容
保育の日課
1) 日課とは、2) 日課の意義、3) 日課に関わる条件、4) 3歳未満児クラスの日課の特徴、5) 幼児クラスの日課の特徴。
- V. 実習生を受け入れて（講義）
保育所現場から
1) 子どものこと、2) 保育のこと、3) 保育者のこと、4) 保育所のこと、5) 実習とは、6) 実習生に望むこと、7) 学んでほしいこと、8) 実習での諸注意など。
- VI. 実習日誌の提出・点検・指導

実 習 11月16日（月）～11月27日（金） 10日間

《実習後》

- VII. 実習を振り返って（反省会）
各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をオリゼミ単位で実施。
- VIII. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接

【評価方法】

平常点

【授業科目名】 保育所実習Ⅰ

【担当者】 鈴木佐喜子 ・ 近藤正樹

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】 2年次に実施する「保育所実習Ⅱ」とともに保母資格取得にあたっての必修科目である。保育体験を通して保育所保育の機能と役割、保育内容と保育の流れを理解し、保育者の仕事内容を知る。同時に、保育所における子どもの生活と活動、年齢ごとの子どもの発達段階を知り、保育計画と指導法についても具体例によって学ぶ。保育科の学生としての意識の形成、保育のイメージ作り、学習課題の発見などをねらいとする。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携
参考資料として各園から出されている施設概要・園便りなどのパンフレット

授 業 計 画

学内での実習関連教科目および「実習指導」の受講後、今年度の実習は
11月16日（月）から11月27日（金）の10日間行われる。

1週間の幼稚園実習の体験後、初めての保育所実習である。上記目標と内容の10日間の実習を行う。実習は主に見学、観察、参加の形で行うが、園によっては見学・観察だけの実習もある。また園ごとに子どもの年齢構成、保育時間が異なるので、実習形態や実習中の配属クラスなどは園の方針、実情などに応じて決められる。

なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。

【評価方法】

学内オリ「実習指導」への出席／受講・実習日誌の記録
実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価

專門教育科目（2年）

【授業科目名】 社会福祉方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 前期・後期	
【授業目標】 社会福祉の専門の援助者によって用いられる社会福祉援助技術を体系的、総合的に理解することを授業目標とする。	
【テキスト・参考書】 授業の中で適宜紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉における援助技術の定義と位置づけ 2. 社会福祉援助技術の専門性 3. 直接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) ケースワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) (2) グループワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) 4. 間接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニティワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) (2) その他 (ソーシャルリサーチ、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルプランニング、ソーシャルアクション) 5. 関連援助技術 (ネットワーク、ケアマネジメント、スーパービジョン、カウンセリング) 6. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 (4) 社会資源の活用 	
【評価方法】 平常授業時のリアクションペーパーと学期末レポートによる。	

「授業科目名」保育原理Ⅱ	「担当者」 村田保太郎
「開講期」 2年 前期	
<p>「授業目標」</p> <p>1年時の保育原理Ⅰ、及び保育実習などを通して得た知識や理解の上に立って、保育所における保育の実際について理解を深める。そのために、保育所保育の評価の観点を明確にして、保育内容等の在り方について具体的・実際的な理解を深める</p>	
<p>「テキスト・参考書」</p> <p>「保育内容等の自己評価」のためのチェックリスト、（保母編）全国社会福祉協議会</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>学生は、保育実習を通して保育所を概括的に理解しているだけで実践的・具体的な経験も乏しいのは当然である。しかしチェックリストの各項目について解説を加えながら、自己の保育を見直す視点を持つことは保育所保育を具体的に実践的に理解する手がかりとなる。特に、保母編を検討することで保育内容等がより明確になり保育所保育の全体像をより深く理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、自己評価の意義と方法 2、自己評価を通して、より確かな保育実践への手がかりをつかむ 3、各項目について、何故この項目が必要なのかどんな意味があるかを考究することによって、保育実践の、ポイントを理解する 4、チェックリストの各項目について解説すると同時に、討論等によって自分の考えを出すことで理解を深める 	
<p>「評価方法」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、進行状況に伴う、小レポート 2、課題を出し、その解答を求める 	

【授業科目名】養護原理Ⅰ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>①児童福祉法上の保育所以外の入居施設の基本的な理解 ②児童福祉施設入所児童の社会的家族的背景の理解 ③養護実践の基本原則・・・事例から学ぶ養護原理</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：浅井春夫編『養護原理総論』保育出版社1997年 参考書：養護施設は今編集委員会『いつか愛を知る日のために』ひとなる書房</p>	
授 業 計 画	
<p>(1)「養護原理Ⅰ」で何を学ぶかー子どもの現状、施設論 (2)里親制度の現状と課題 諸外国の児童養護の現状とわが国の現状、課題 (3)児童養護の歴史とホスピタリズム論 わが国の児童養護の歴史、児童の変化、養護論の検証とホスピタリズム論の克服について (4)児童福祉施設各論－A養護系施設 児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設 (5)児童福祉施設各論－B障害系施設 精神薄弱児、重症心身障害児、肢体不自由児施設 (6)児童福祉施設各論－C治療系施設 情緒障害児短期治療施設、(虚弱児施設) (7)児童福祉施設各論－Dその他 自立援助ホーム (8)児童福祉の理念と児童福祉施設の水準 諸外国の児童福祉施設の現状と国際的水準、わが国の位置と役割 (9)施設条件の現状と今後の展望 児童福祉施設最低基準、児童福祉法改正、子どもの権利条約 (10)施設労働の実際と児童への援助関係における関わり方 養護原理の基本に結びつけて (11)児童養護の原理と課題 養護原理を項目的に整理し、課題を検討する</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験のみ</p>	

【授業科目名】養護原理Ⅱ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①養護原理Ⅰを踏まえて、具体的な実践内容を学ぶ ②施設入所児童をめぐる生活課題と援助内容を深める ③施設養護の今日的な課題への理解と施設職員として必要な事項を深める 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：浅井春夫共編『児童養護の変革』朱鷺書房、1997年</p> <p>参考書：浅井春夫編『子ども虐待シンドローム』恒友出版、1995年</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> (1)子どもの権利条約と養護原理 権利条約の歴史的意義と内容の理解、子どもの権利の現実 (2)児童養護における日常生活の意義 入所前の無権利状況から権利を守る生活への手続きと配慮、基本的生活習慣の習得と大人との関係 (3)高年齢児の養護 思春期の特徴と発達課題、問題行動の捉え方と対応 (4)子ども虐待の現状と発見・援助内容 諸外国とわが国の現状、定義と分類 性的虐待の現実とその社会的背景、虐待を受けた子どもへの対応、援助の基本 (5)性教育の基本的視点と生活の中の性教育 施設における性教育の展開、生活の中で進める視点 (6)子どもの自立の現状と援助内容 自立の時期の高年齢化と自立の内容、幼児期からの自立的養育 施設における自立支援・援助 (7)進路指導とアフターケア 進路指導の現状と課題、リービングケアの課題、アフターケアの現状と課題 (8)施設労働の現実と労働基準法 社会福祉労働の基本的視点、労働基準法問題の検討 (9)21世紀の児童福祉施設像の探究 児童福祉改革の動向と課題、求められる施設職員の専門性 福祉労働者の課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験のみ</p>	

【授業科目名】 臨床心理学

【担当者】 村田保太郎

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

現在の乳・幼児は発達初期における親の養育上の状況によって、様々な行動上の問題を持った子どもが増えている。これらの問題に対して具体的にどのように援助すればよいかを学習する。その過程で、臨床心理学の意義や方法等の理論及びカウンセリングの基本的な理解や技法にふれる。

【テキスト・参考書】

「Q & A 子どもの心の健康相談室－0歳から6歳－」 村田保太郎著 平凡社

授 業 計 画

- 1、0歳から6歳までの各年齢段階で、実際に起きた事例をとりあげて、臨床的に解明する。
- 2、事例研究法によって、各自の考えや意見を出し合い事例の本質に迫る。
- 3、問題となる子どもの行動に対して、その原因の究明、保護者に対する援助や助言の基本を学ぶ。
- 4、ロール・プレイングによって、各自が相談者と面接者の役割を演じることによって、保育者として現場に立った時の実践力をつける。
- 5、講義及び、臨床的な問題に対するケース・スタディの方法等実践的、実際的な力を養うこともねらっている。
- 6、子どもの成長・発達と「発達課題」などについて、臨床心理学の立場から理解を深め、保育の実際に役立つような力を養う。

【評価方法】

- 1、ロール・プレイングの実際場面の評価
- 2、ケース・スタディの実際場面の評価
- 3、進行状況に応じて、小レポートを出す。

【授業科目名】 小児保健II	【担当者】 谷俊治
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、心身障害児を理解し、QOLを高めるためのサポートについて解説するつもりです。障害児にとっても心の健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 1. 船越知行 編著「障害児早期療育ハンドブック」 学苑社 2. 徳田克己・遠藤敬子「ハンディのある子どもの保育ハンドブック」 福村出版</p>	
授 業 計 画	
<p>精神薄弱児（知的発達障害児）、脳性麻痺児、情緒障害児、自閉児、多動児、てんかん児、ダウン症児、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児、重症心身障害児などの理解と保育のために必要な知識について、医学や心理学、保育や福祉の立場から解説します。障害児のQOL(quality of life)を考えるための交流分析や家族療法についても言及するつもりです。</p> <p>毎時間、授業の終わりに用紙を配り、質問や意見を求めます。次の時間は質問に答えることから始め、一方交通の授業にならないように配慮するつもりですので協力して下さい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 小児保健実習

【担当者】 水波佳津子

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】 ・子どもの健康な発達を保障する保育活動に大切なことは、子どもの発達のみちすじや病気、異常、けがの特徴を知り、ひとりひとりの子どもの日常の状態をしっかりとらえることである。そこで、小児科学や乳児保育で学んだことを基礎に、養護の心得、観察のポイントを具体的に学ぶと共に実技実習を通して実際の扱い方を身につける。

【テキスト・参考書】

テキスト 坂田 堯 (日本赤十字社医療センター附属乳児院編)
『乳幼児保育指針』 日本小児医事出版社

授 業 計 画

○講義

I オリエンテーション

乳幼児養育の理論と技術(基礎と実際)について
子どもの養護と自立→健康発達への支援

II 健康状態の観察

A 一般状態の観察(きげん、顔つき、顔色、動作、食欲、睡眠)

B 身体各部の観察

III 小児に起こりやすい症状とその対応

・発熱・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・脱水

IV 小児に起こりやすい事故

・窒息事故・熱傷・誤飲・創傷・頭部外傷

・腹部損傷・骨折・捻挫・脱臼・打撲

・異物・咬傷・日射病・熱射病・ガス中毒

V より健康な子どもを育てる ・積極育児 ・赤ちゃん体操、外気浴、日光浴
・個人・集団の健康管理と記録

VI 保育者自身の健康管理

○実技・実習

I 基礎的養護方法(ミルクの飲ませ方、排気の仕方、衣服の着せ方脱がせ方、
おむつのあて方、おんぶ抱っここの仕方)

II 身体発達、測定の方法、評価の仕方

・身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習

・発育指数 a パーセントイル曲線 b カウプ指数

・乳歯、永久歯との関わりと う歯予防について

III 病気や異常の見分け方、病児の世話

・重症であるかどうか保育者としての見分け方 ・体温、呼吸、脈拍測定の実習

・薬の飲ませ方(散薬・水薬の飲ませ方の実習、座薬、塗布法、点眼法、注意事項の説明)

・薬の保管 ・症状処理等の記録

IV 感染予防 予防接種 発見と隔離 消毒法(理学的化学的消毒法)

V 沐浴実習 実物大(形状・重量)の沐浴人形を用い、全員が実習する。

(実習終了後、意見・考察・感想文提出)

【評価方法】

①筆記試験

②沐浴、身体測定の実習評価

③授業時の平常点、感想文

【授業科目名】 小児保健実習	【担当者】 伊藤祥子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】 乳幼児を保育する中で安全であることが第一であるが、子供は活発に運動をしたり、遊んでいるときに、転ぶ・ぶつかる・落ちる等の事故で怪我をしたり、また急に発熱・ひきつけ等の身体症状を起こすことがある。こうした事故が発生したときに、あわてずに適切な処置ができるように、救急法や看護の知識・技術を身につけてもらうことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>乳幼児保育指針（日本赤十字社医療センター附属乳幼児院編）坂田 堯 著 赤十字急救法教本 日本赤十字社</p>	
授 業 計 画	
<p>1 乳幼児に起こりやすい事故について学習し、その予防について考えさせる。</p> <p>2 救急法の実際</p> <p>病気や事故が発生したとき、最初に行った処置（First・Aid）が適切であったか否かによって病気・怪我の経過に影響を及ぼし、予後にも関係してくるので重要である。</p> <p>下記5つの項目について、実施方法・一般的な注意・処置の順序などを話し、実習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 事故防止と安全教育・救急箱の利用 ★ 体位（寝かせ方）運搬法 ★ 傷の処置・止血法 ★ 救急蘇生法 （気道内異物除去・気道確保・人工呼吸法・心臓マッサージ） ★ 包帯法 （三角巾・巻軸帯・副子の当て方） <p>実習では、学生が実際に、患者・術者を体験しながら学習をしていく。</p>	
【評価方法】	<p>筆記試験</p> <p>授業時の実習評価</p>

【授業科目名】 小児栄養実習	【担当者】 中澤弥子
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 哺乳から始まる人間の食生活は、生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長する。小児栄養実習では、乳児期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでの各ライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者としてどのような食事展開が必要かを理論と実習を通じて学ぶ。	
【テキスト・参考書】 二木 武、北 郁子、高野 陽、水野 清子著 「小児栄養」 医歯薬出版 小児栄養実習担当者で作製したテキストを使用	
授 業 計 画	
テーマ	理論
1. 妊娠・授乳期の 栄養と食事	1) 受精による母体の変化と胎児の成長 2) 妊娠期の・授乳期の栄養の特性と栄養摂取の仕方に対する 配慮点(特につわり、貧血、妊娠中毒症の原因と予防)
2. 乳汁期の栄養と食事	1) 新生児の生体リズムと発現と哺乳の変化、それに伴う生活 日課の組み方 2) 母乳栄養について 3) 母乳と各種育児用ミルクの比較及び調乳について
3. 離乳期の栄養と食事	1) 食文化との出会い 2) 離乳の意味 3) 咀嚼システムの発達 4) 離乳食の進め方
4. 幼児期の栄養と食事	1) 幼児期栄養の特性 2) 食べ方の発達 3) 幼児の間食・べんとうについて
5. 学童期・思春期・ 青年期の栄養と食事	1) 学童期・思春期・青年期栄養の特性 2) 各児童福祉施設の食事上の特徴 3) 子供たちが自分の健康を自身でつくれる食生活とは
6. 成長期の栄養と 食事の評価	1) 望ましい発育栄養状態 2) 食事指導のあり方
【評価方法】 1. 試験および各テーマ毎に実習のレポート提出 2. 保育者としての自分自身の食事診断レポート提出 3. 実習態度等の平常点	} 3点の総合

【授業科目名】小児栄養実習		【担当者】 柳沢幸江 田原喜久江
【開講期】 2年 前期		
【授業目標】 哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長させる役割を担う。小児栄養実習では、乳汁期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでの各ライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者として必要な食事展開を実習と理論を通して学ぶ。		
【テキスト・参考書】 小児栄養実習担当で作製したテキストを使用		
授 業 計 画		
テーマ	実 習	
1. オリエンテーション	1) 調理実習室での実習にあたっての基本的心得と衛生的配慮, 調理器具の正しい扱い方を学ぶ。	
2. 妊娠・授乳期の栄養と食事	1) 20代女子の1日の食事を基本にして、妊娠・授乳期の食事展開を行い、食品や食事の配慮を学ぶ。加えて、自分の食生活の在り方を学ぶ。 2) 妊娠期におきやすい、つわり、便秘、貧血、妊娠中毒症の食品選択, 調理方法を学ぶ。	
3. 授乳期の栄養と食事	1) 各種の育児用ミルク、フォローアップミルクの特徴を知り、無菌操作法による調乳を実習する。 2) 母乳栄養・母乳保育に関わる冷凍乳の扱い方を実習する。 3) 離乳準備食としての果汁・野菜スープを実習する。	
4. 離乳期の栄養と食事	1) 離乳の基本をもとに、乳児の摂食機能・感覚機能・運動機能の発達に伴う離乳食の進め方を初期・中期・後期・完了期にわけて実習する。特に食事量, 調理形態, 味付けの変化を中心に調理展開する。 2) 乳児に適した食器具と与え方を学習する。	
5. 幼児期の栄養	1) 幼児期の食事を生理機能・摂食機能・心理面の発達に応じて考えるために、同一の食素材を用いて実習し、その配慮点を学ぶ。 2) 幼児に適した食器具と調理形態の関連を学び、子供の食べ方, 与え方を学習する。	
6. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1) 各自で自分に適した1日の食事を計画し、その中の夕食献立を班単位で実習する。これらの実習結果をもとにさらにより望ましい食事計画を学習する。	
【評価方法】 1. 試験および各テーマ毎に実習のレポート提出 2. 保育者としての自分自身の食事診断レポート提出 3. 実習態度等の平常点		
		3点の総合

【授業科目名】 精神保健	【担当者】 工藤行夫
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】 精神的健康の保持、増進をはかり、精神障害を予防、治療する諸活動が精神保健である。WHOの健康の定義に「身体的、心理的、社会的にwell-beingの状態にあること」とあるように、身体レベルから社会レベルまで広い領域が含まれる。精神の発達段階（ライフサイクル）に応じたそれぞれの精神保健を、臨床的知見を交えながら検討する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：武正建一編『精神医学サブノート』（南江堂）</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね以下の項目について授業を進める予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康、精神の発達 2. 心身相関、心身症 3. 精神力動、神経症（ノイローゼ） 4. 小児の心性、自閉症 5. 思春期の心性、思春期やせ症 6. 精神分裂病（1） 7. 精神分裂病（2） 8. 退行期の心性、躁うつ病 9. 薬物依存、アルコール依存 10. 老年期の心性、老年期痴呆 11. 社会との関連、精神鑑定 12. 日本の精神医療 	
【評価方法】	

【授業科目名】 教育課程総論	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 主に幼児の教育課程の在り方について、基本的な内容と、具体的な事柄について知ること。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>教育課程の在り方を話す。まず、教育課程の語源と意味、必要性について話す。</p> <p>その上で、教育課程について考え、編成するための様々な知識について話す。</p> <p>たとえば、生活の概念、保育の構造、倉橋惣三の保育構造論、あそび、行事、仕事（労働）、個と集団との関係などについて話す。</p> <p>それらの間に幼稚園実習のために「指導計画案」の立て方について話す。</p>	
【評価方法】 テスト	

【授業科目名】 人間関係（社会行動）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようにはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係 - 人とのかかわりの育ち』萌文書林 ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼免・保母資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連・共通点と異なる点も併せて説明する。 2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。 3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。 4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれうものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。 5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。 6. 子どものが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。 7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。 8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。 9. 園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にす。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。 10. 園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どものたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。 11. 「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることで本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">期末にペーパーテストを実施</p>	

【授業科目名】 環境 I (自然認識)	【担当者】 近藤正樹・小作明則
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもたちは、自然環境の中で、自然物・自然現象に出会って、知的体験を拡大していく。この教科目ではこれらの体験も適度に提供できる保育者を養成するために必要な基礎知識と体験の先行学習を含み、保育現場での底力がつく保育者として送り出したい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使用しない。(プリントを配布する)</p> <p>参考書は演習や講義ごとに紹介する。(基本的なものは学園図書館にある)</p>	
授 業 計 画	
<p>事前学習(3月27日～31日まで)全学生を5分割し、日帰り実習「磯の自然観察」を行う。 (4月3日(金)) 全学生を2分割し、栽培演習の「土づくり」を半日ずつ行う。</p>	
4月8日	<p>幼児のための環境設定 ① 栽培(講義と演習) 畑づくり・土づくり 農具の使い方 施肥と防虫 栽培計画</p>
4月15日	<p>幼児のための環境設定 ② 飼育(講義) ムシに強くなるう 飼育の要点 正解は観察をしてから</p>
4月22日	<p>植物にあかるい保育者になるために ① (演習)(雨天の場合次週分の講義と演習) 身近な雑草の観察 花・茎・葉・根の特徴を知る</p>
5月6日	<p>植物にあかるい保育者になるために ② (講義と演習) 検索のしかた 顕微鏡の使い方 花の構造の観察</p>
5月13日	<p>ムシを知っている保育者になるために ① (講義) ムシとは何か 昆虫の基本構造 発育と変態 昆虫の生活</p>
6月10日	<p>ムシを知っている保育者になるために ② (演習) 昆虫(アリ)の構造観察とスケッチ</p>
6月17日	<p>「これなあに」に強くなるために (講義) 認識と質問の関係 概念形成の質問と対応のしかた</p>
6月24日	<p>「どうして」「なぜ」に強くなるために (講義) 知識拡大の質問と対応のしかた 「正しい話」と「うそ話」 解答不能の扱い方</p>
7月1日	<p>自然の変化に気づく (講義) 天気と気象 天気図の見方・使い方 生物季節 天体物理現象</p>
7月8日	<p>「自然」とは何か (講義) 自然・人為・人工 自然物・自然現象・自然法則 「自然度」が意味するもの。</p>
7月15日	<p>自然保護と環境教育 自然保護の考え方 生命尊重の意味 「かわいい」「かわいそう」の問題 環境教育</p>
<p>【評価方法】</p> <p>演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う。</p>	

【授業科目名】 表現 I (文化行動 a)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは見たこと、感じたことを色々な時や場で、言葉や身体で表現しようとする。その自発的な表現を育み、子どもの感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための指導力を養う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト；石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>(1) 表現 I (文化行動 a) 中の「身体で表現する」の保育内容での位置づけを知る。保育内容「表現」及び「文化行動 a」とは</p> <p>(2) 身体で表現することの意味を理解し、子どもの身体表現はどんな意味があり、日常みられる表現の姿から幼児の表現の特性を理解する。</p> <p>①表現の意味とその理解 ②身体表現の意味とその理解 ③子どもの身体表現とその意味の理解</p> <p>(3) 幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達と関わらせながら日常的にみられる身体表現の発達を理解する。</p> <p>①運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現 ②0～5歳児の身体表現の発達と特徴</p> <p>(4) 保育の場における身体表現活動から身体表現力の変化とその特徴を理解する。</p> <p>①3歳児の身体表現 ②4歳児の身体表現 ③5歳児の身体表現</p> <p>(5) 子どもの身体表現を豊かにひきだし育むために保育者がどのように援助すべきかを理解する</p> <p>①援助の基本的姿勢 ②表現の題材 ③動機づけ ④豊かにとらえる ⑤豊かに表す ⑥援助と言葉かけ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">筆記試験</p>	

【授業科目名】 表現Ⅰ（文化行動a）	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の発達をよく理解し、その発達の段階にそった音楽の表現活動を、スムーズに指導する事のできる保育者を育てる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>【子どもが音楽を好きになるとき】 加宮 葵 著 音楽之友社</p>	
授 業 計 画	
授業のねらい	授 業 内 容
幼児の心と音楽の関係を良く認識する。	<p>1) 教育理論編</p> <p>① 幼児教育における音楽について</p> <p>② 幼児の心の発達と音楽的感覚の開発について</p>
<p>表現としての音楽の認識</p> <p>発達に応じた望ましい音楽のあり方を認識する</p>	<p>③ 表現としての音楽</p> <p>・うたう事のはじまり・音を出す事のはじまり</p> <p>・幼児の集団とうた ・幼児の集団と楽器</p>
音楽教育の第一歩は、きくという活動から始まる事を認識する	<p>2) 指導と実践編</p> <p>① 幼児の音楽鑑賞 [音楽を聞く能力の発達段階の特徴]</p> <p>② 幼児のうたの指導 ・年少児・年長児</p>
学生が実際に、いろいろな楽器の特徴や奏法を知る事により、使用する目的・場所等への適応、曲のリズム、メロディー、伴奏等への考慮が出来るようにする	<p>③ 幼児の楽器の指導</p> <p>・簡易楽器の特徴と奏法</p> <p>・基本リズムパターンの習得</p> <p>・年少児・年長児の合奏指導</p> <p>④ 幼児の創作指導と実践</p>
指導計画・指導案を知る	<p>⑤ 指導計画・指導案</p> <p>・年間指導計画・月間指導計画・日案 週案（具体的なうたや楽器の指導計画）</p> <p>⑥ 教材曲の実践例等</p>
★全出席を原則とする。	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験の成績・特に出席点を重視する。</p>	

【授業科目名】 表現Ⅰ（文化行動b）	【担当者】 八木 紘一郎・花原 幹夫・海老原 京子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、造形的な表現文化行動様式を獲得できるような援助の内容と方法を理解する。そのための具体的な〈教材理解〉〈表現文化行動理解〉〈援助指導方法〉の三つの基本を主に習得することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『新しい表現遊び ―総合的表現活動の指導法―』…八木・枝常・花原・海老原（フレーベル館）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの表現行動は、身体を媒体にした音楽やダンスなどの表現文化行動（文化行動a）と、モノを媒介にする造形的な表現文化行動（文化行動b）の両方をミックスさせながら総合的に展開される。この点を視野に入れた上で、授業では後者の造形的表現文化行動を中心に行い、その援助指導方法の基本を学ぶ。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現文化行動とは 2. 表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解 3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解 4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解 5. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解 6. 総合表現の援助指導方法の理解 7. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常授業での課題を評価する ・授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価する 	

【授業科目名】 環境II	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自然教育と環境教育に立脚し、幼児教育の場としての自然を考える。「環境I」で学んだ知識と技術を基に、私たちにとってなじみ深い人里の自然を総合的にとらえ、子ども達の観察の場、活動する場としてどう設計し利用するか。環境保全問題も合わせて考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：『小さな自然観察』思索社 参考図書：エコロジカルデザイン・道と小川のビオトープづくり・草花遊び虫遊び・カエルが鳴く山のたんぼ・野外における危険な生物・環境教育のすすめ・日本型環境教育の提案</p>	
授 業 計 画	
<p>野外実習</p> <p>I 講義</p> <p>II 講義と演習</p> <p>III 講義と演習</p> <p>IV 演習</p> <p>V 演習</p> <p>VI 講義</p> <p>VII 講義</p> <p>VIII 演習</p> <p>IX 演習</p> <p>X・XI 演習</p>	<p>春（5月）秋（10月）の里山の自然 地形をみる。景観を見る。風景のスケッチ。動植物の採集と観察。</p> <p>この科目の主目的とねらい 自然教育・環境教育の視点。人里の自然環境と動植物。</p> <p>地図の見方、利用の仕方 各種地図と航空写真。地形を読む。高さ／距離を測る。</p> <p>土地利用と植生図 航空写真と現地での記録などを材料に現地の植生図を作る。</p> <p>動植物の整理（1） 採集してきた動植物の名前を調べリストを作る。生態や習性を知る。</p> <p>動植物の整理（2） 植物図鑑を作る。</p> <p>いきものにやさしい環境利用とは エコロジカルデザインーいきものと共生する町作りの例示紹介。</p> <p>子ども達にとってよい自然とは エンバイロメンタルヤードー子ども達自身のお手による生物と子ども達のための自然を作る。</p> <p>子どもの遊び環境を作る 里山の自然の中に子供の活動域を作る。同時に自然の保全を考える。 いきものと共生できる幼稚園（園庭・園舎）を作る。</p> <p>子どもの遊び環境としての動植物 植物を使ってどんな遊びや創作活動ができるか。 採集や飼育対象の動物や危険な動植物など。</p> <p>まとめ</p>
<p>【評価方法】</p> <p>植物図鑑の作成 野外実習レポート＋演習の総合レポート＋平常点</p>	

【授業科目名】 環境II		【担当者】 近藤正樹
【開講期】 2年 後期		
【授業目標】 環境I(自然認識)では教育法の内容にも触れぬはならず、保育者の自然認識体験には限界がある。この事情を受けて、身近な自然の認識体験に重点をおいた演習「武蔵野小動物図鑑」の作成をゴールとした総合活動として企画している。グループ活動とする。		
【テキスト・参考書】 テキストは使用しない。(プリントを配布する) 参考書として小動物の分類同定に必要な図鑑を紹介する(学園図書館にもそろえてある)		
授 業 計 画		
9月30日	グループ研究のすすめ方 分担研究の選択と企画	テーマ「武蔵野の小動物図鑑」(講義) 土壌中にすむ動物 草地にすむ動物 光に集まる昆虫の採集法
研究材料(動物)の採集はこの間に教員の指導下で行う(演習) 採集場所は雑木林とあき地の草むらとに分けて分担する それぞれ、草地で幌蚊帳を用いた採集・土壌動物の採集、夜間の灯火採集に分けて分担する		
10月7日	資料(動物)の種類分け(sorting)(講義とグループ活動)	
10月14日	資料(動物)の同定(identification) (グループ活動) 図鑑類を使って検索する	
10月21日		
10月28日	接写写真・顕微鏡写真撮影の技術指導(演習)と同定の続き(グループ活動)	
11月18日	資料(動物)の撮影と同定の続き(グループ活動)	
11月25日		
12月2日	武蔵野の自然 ① 地形・地質・土壌・気象 (講義)	立川地区白地図を地類別に塗り分けて提出する(個人演習)
12月9日	武蔵野の自然 ② 自然植生と都市化の歴史(講義)	
12月16日	「武蔵野小動物図鑑」の企画と作成(講義とグループ活動)	
1月13日	「武蔵野小動物図鑑」の作成(グループ活動)し、提出	
1月20日	「武蔵野小動物図鑑」の作成経過と内容」の紹介(演習・研究発表会)	
1月27日	地域学習と自然体験(講義)	
【評価方法】 個人演習(地図塗り)とグループ演習(図鑑制作)と平常活動の総合評価とする		

【授業科目名】 言葉 II	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 障害児を含めた乳幼児の言語発達過程において発達助成者として位置づく保育者に、さまざまな物的人的教材を媒介として育む「方法論」の習得を目指す。個及び集団の発達に見合った教材の選択と技法を学び、さらに評価修正技術の習得に置く。	
【テキスト・参考書】 参考資料として提示するものとしては、1993年度、1994年度生の提出作品集がある。	
授 業 計 画	
<p>1) よくひびく、よくとおる声の養成 TRCを用いて反復・修正練習をしながら質を高めます。</p> <p>2) 教材を吟味する確かな目の養成 この場合の教材は絵本、紙芝居、童話、素話、パネルシアター、エプロンシアター、ことばあそび、手あそび、人形 その他の遊具など、素材だけでなく、それを保育場面で用いるときに対象児の年齢や場面、保育集団の中で生きるかどうかの判断をした上での内容教材であるかどうかという目を養うものです。ただ単に、自分が「これが好きだから」というだけではなく、選択する視点を学びます。 発想豊かになったとき、用い方はより広がりを見せるようになります。</p> <p>3) 2) で選んだ内容(教材)の実践編として、上にあげた素材を教材として用いること。 実際場面を模擬的に作って実践してみます。 演習実践を通して自分の育ちをみつめ直したりすることや、未熟で課題としていくことなどを見ながら、技法として選出していくこともします。</p> <p>4) どのような状況や場面でも即応判断能力で実践していける応用力の養成 保育場面をコミュニケーション場面としておさえていきます。保育は子どもたちだけではなく、さまざまな人間関係も含みます。どのような人と出会ってもやっつけていける能力について「自分自身」をみつめることから始めます。</p> <p>演習形態で以下のことを実践してまとめていく。グループ活動でまとめるものとする。</p> <p>1. 絵本 1人10冊×5人=1グループで50冊 年齢別に区分し「言語」能力別に分類、要約、特徴、使用時の留意事項を記載してまとめる。</p> <p>2. 紙芝居 1人5冊×5人=1グループで25冊 絵本と同様にまとめる。</p> <p>3. 創作話作成 保育で大切にしたいテーマとして創作話作成後パネルシアター、紙芝居、絵本などで表現する。</p> <p>4. 手あそびを1グループ50種選定して覚える。選出したものは小冊子にまとめる。</p> <p>表現作品発表会を最終授業で行う。</p> <p>個人の授業を終えた感想をまとめ、グループでとりまとめて上記の作品を提出すること。</p>	
【評価方法】 ①平常点 ②提出課題の量と質 によって行う	

【授業科目名】 表現Ⅱ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体で表現する活動を通して表現の喜びを体験し、表現技術を高め、その文化的、教育的価値を認識させる。また、幼児の指導法についても理解させる。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味や意義を学ぶ。 聴覚障害児が初めて舞台上でダンスを発表する過程を収録したビデオを鑑賞し、身体で表現する意味や意義について考えを述べ、話し合う。</p> <p>(2) 感じたこと、考えたこと、表したいことなどを身体で自由に表現する方法を学ぶ。 テーマ 動きのデッサン 動きの変化 フレーズの動き モティーフの動き 作品構成 中間発表 修正 踊り込み 作品発表 鑑賞(ビデオ収録) ビデオ鑑賞及び作品の反省と批評</p> <p>(3) 表現Ⅰ(身体表現)や創作活動で学んだことをふまえ、子どもたちが自由にのびのび表現するように保育者が援助する方法を学ぶ。 ①指導案作成(3歳児、4歳児、5歳児) ②模擬指導 ③反省と批評</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>舞台における実技発表および平常点</p>	

【授業科目名】 表現Ⅱ (デザイン)	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは、様々な自的をもって「描く」「つくる」という造形表現方法をミックスしながら「デザイン」をしていく。その内容を理解し、同時にその援助指導内容の習得を目標に、演習を中心にして授業をすすめていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザインの意味・役割について 2. 子どもがデザインする意味・役割について 3. 子どものデザインの具体的内容について 4. 子どものデザインとその援助方法について 5. 保育者のデザインについて 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルに工夫してまとめたものを評価する</p>	

[授業科目名] 表現Ⅱ (子どもの音楽)	[担当者] 秋山治子
[開講期] 2年 後期	
<p>[授業目標] 幼児歌唱曲を沢山歌い、時には深く味わってみる。一方子どもの音楽教育を築いてきた世界の主要な人物のメソッドと日本人に深いつながりを持つわらべ歌を知る。 以上の内容を実践的に演習し学習してもらう</p>	
<p>[テキスト・参考書] 参考書・「おかあさん弾いて!先生歌って!」改訂版 秋山治子著、アイ企画、他1冊 「表現」①② 高野雅子著 保育出版社</p>	
授業計画	
<p>1・2 保育園や幼稚園で行われている音楽領域の遊びについて 3 世界の代表的な音楽教育家の思想とメソッド 4・5 ダルクローズについて 6・7 オルフについて 8・9 コダーイについて 10・11 日本のわらべ歌とあそびについて 12 わらべ歌の音階理論について</p> <p>時間的に余裕があれば音楽を中心にした指導計画の立案と実践を取入れたいと思っている</p>	
<p>[評価] 1 出席 2 レポート</p>	

【授業科目名】 保育計画法	【担当者】 藤野敬子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>家庭や地域と共に育ち合う保育、子どもと共に生活を創りだしていく保育について具体例を手がかりに学び、自分で計画を作ってみることにより、計画をたてる難しさ、楽しさ、工夫する面白さが体験できればと願っている</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 「指導計画の作成と保育の展開」文部省 フレーベル館 110円 参考資料 プリントして配布</p>	
授 業 計 画	
<p>今の乳幼児には、これまでとは違う計画が求められている。従来のように、各々の年齢の、ねらいと内容を、いつ、どのように実践に移すかというための計画ではなくて、一人ひとりの子どもの自分探しの旅を扶ける営みとしての教育ふさわしい計画である。「資源としての計画」などの提唱もあるが、それは単に状況を見て、個々にその都度 対応していくというのではなくて、もっと広い視野から乳幼児の発達の筋道を見通し、さまざまな人間関係を考慮しながら計画していくものである。乳幼児の実態は、その子どもの置かれた環境や園生活のありようで、大きく変わる。どのような保育によって、どのように子どもが育つか学んでいきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の計画とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境による教育の計画 (2) 乳幼児をとりまく今の環境と環境の中に込められている保育者の願い (3) 一人一人の気持ちにそい、共に生き、共に育ち合う園生活の計画の立て方 2 計画の作成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 一日の計画作成 (2) 実習で実践した計画の検討 (3) 記録の取り方と計画の評価 3 これからの保育計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもと共に創りだしていく計画の楽しさ (2) 障害を負った人、老人、家族など多様な出会いの中で育つ計画 (3) 地域と共に生き、園も文化や自然を豊にする働きをする計画 	
<p>【評価方法】 レポートと日常のミニレポートや作成した計画などを総合して</p>	

【授業科目名】 保育計画法	【担当者】 米山千恵
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】 保育の計画の重要さや望ましい計画のあり方について理解を深め、保育の計画の諸問題を整理し計画作成に至る過程、立案上の要点、記録や評価について具体的な事例から学び、また計画を作成することを試みることによって保育の計画を身近かなものとしてとらえることを目標としたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 保育所保育指針 参考になる資料をプリントして配布する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期の幼児の計画の具体的な展開に続き、後期では乳幼児から就学前までの一貫性ある保育の計画を考慮しながらも主に3歳未満児にウエイトを置き、講義と計画の作成や検討、また実際の資料やスライド、VTRを使い授業を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 子どもの自覚的、自主的活動を援助する保育の計画の理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育計画、指導計画とは。 ・ 指導計画作成の要点。 指導計画の種類や内容、様式等について。 ・ 指導計画と保育条件。 ・ 計画の評価、記録。 ◎ 3歳児未満児クラスの指導計画。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスとしての計画と個人、グループの計画。 ・ 0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの指導計画の実際。 ・ 生活、遊びを計画するための基礎資料を学ぶ。 ・ 家庭から集団生活へ。 ◎ 実際に計画を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習で作成した指導計画を検討する。 ・ グループごとに、いろいろな計画の中からひとつを選びその年齢にふさわしい計画を作成してみる。〔生活、遊び、外遊び、環境（空間）、道具、行事、家庭との連携など〕 	
<p>【評価方法】 ミニレポート、レポート、作成した計画</p>	

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げる中で、視野を広げ、乳児保育に関する具体的で多様な側面を理解し、より実践的な力量の形成を目指す。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考文献 授業時に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児保育をめぐるさまざまな問題を考えるため、前半は講義形式、後半は演習形式で、以下のようなことを行う予定である。その中で各自が、乳児保育をとらえる総合的な視点を深め、乳児保育のあり方、内容、方法についての課題意識を育んでいきたい。</p> <p>(1)今日の社会と乳児保育 — 親の労働や子育ての実態と乳児保育 —</p> <p>(2)乳児保育の内容と方法に関する問題</p> <p>(3)乳児保育をめぐる思想的、理論的問題</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】養護内容	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>①養護原理Ⅰ・Ⅱを踏まえて、施設養護の実践内容を学ぶ</p> <p>②演習形式を通して、実践能力を養成する</p> <p>③事例の検討を通して、施設児童の理解とケアの方法を学ぶ</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：シンシア・ノモハン『子どもの心の傷をいやすために』講談社 浅井春夫編著『子どもの虐待シンドローム』恒友出版</p>	
授 業 計 画	
<p>上記のテキスト及び現場からの事例をふんだんに使い、具体的なテーマ及び場面に即して検討、ロールプレイを行い、実際に子どもたちとのコミュニケーションのあり方を実習し、子どもと関わることの深さを追求する。 事例についての分析・整理を分担し、共に検討し合う姿勢での出席が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題意識の交流、授業計画、方法の確認 2. 事例研究の方法 事例から何を学ぶか 3. 具体的な事例と検討・・・以後与えられた事例またはテーマについてグループでレポートし、検討する。 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児の状況と事例 ②小学生の状況と事例 ③中学生の状況と事例 ④高校生の状況と事例 ⑤軽い障害を持つ子の事例 ⑥PTSDの事例 ⑦性的虐待を受けた子の事例 ⑧養護施設から変更される子どもの事例 4. 各機関とのネットワークを生かした取組 児童相談所、福祉事務所、保健所、心理学専門員、学校等との連携のあり方 5. 児童養護計画と具体的な内容作り 個別処遇計画、グループワーク、家族支援計画、アフターケアの取り組み 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と討議への積極的姿勢、分担のレポートへの責任</p>	

【授業科目名】 障害児保育	【担当者】 堀江 まゆみ
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害児の行動特徴や発達課題を理解し、障害児保育、主に統合保育における保育実践のあり方を考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>平山論ら「障害児保育コンセンサス」（福村出版）</p>	
授 業 計 画	
<p>「障害児保育」とは、専門施設における少集団保育（分離保育）を指す場合と、保育所、幼稚園におけるいわゆる「統合保育」を指す場合とがある。障害児を理解する上では発達をとらえそれを援助する保育実践を行う点で共通するが、実践課題としてはここでは「統合保育」を中心として考えていく。</p> <p>授業内容は主に理念、制度、発達評価、保育実践から主要なテーマを取り上げる。</p> <p>特に、障害児の行動特徴を理解し求められる発達課題はなにかについてこれまでに学習してきた発達心理学的な知識を使いながら評価し、それをより豊かに援助するための保育実践を治療教育的視点と社会教育的視点から理解することを目標とする。授業には実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習ができるように配慮する。</p> <p>およそ、以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ノーマライゼーションの思想とインテグレーションの理解 ② 「障害」の概念と構造－保育における「障害」とは ③ 障害児保育（統合保育）の実際（VTR等を使用） ④ 障害の理解－知的障害、自閉症、言語障害、重複障など ⑤ 子どもの発達および発達課題の評価 ⑥ 障害児保育の実践1（実践レポート、VTRなど使用） ⑦ 障害児保育の実践2（実践レポート、VTRなど使用） ⑧ 我が国における統合保育の現状と課題 ⑨ 家族への支援 ⑩ 障害児と地域、専門機関との連携 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 平常授業の中で整理テストや討論を適宜行う。 ② 統合保育実践のVTR分析あるいは実践報告のレポートをまとめる。 	

【授業科目名】 家庭管理	【担当者】 佐藤美千子
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】 児童の成長発達に大きな影響を及ぼす家庭の本質と機能を把握し、家庭管理の意義と実際についての基礎的な事項を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキストは、使用しない。 参考書： 宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論 新版』有斐閣新書 他</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>「家庭管理」という科目名から、古いイメージの「家事・家政」を思い浮かべ、「やりくり」の方法を学ぶことを連想するかもしれない。しかし、ここでは、家庭の経営管理をそのような「家庭内でのやりくりごと」として捉えてはいない。</p> <p>この授業では、次の2点を重視していきたい。</p> <p>①家庭生活問題の発生原因を、家庭外にも積極的に追求して考えていく。</p> <p>②家庭生活を、人間の全面的発達保障の場として捉える。</p> <p>「家族の中の個人」と「共同体としての家族」の矛盾のない発達を実現していくために、性役割を超えた男女の平等と生活協力のあり方を考えていく。</p> <p>授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活の構造と家庭管理の問題領域 ・ 家族の多様化と家族関係、ライフサイクルの変化 ・ 家事労働の役割と特質、家事労働をめぐる論争と今日的動向 ・ 生活時間の構成要素と現状、課題 ・ 家計の今日的傾向 ・ 生活設計 —— 自分を育て、家庭を営み、地域や職場で 確実な歩みを続けるために —— 	
<p>【評価方法】 レポートと平常点</p>	

<p>[授業科目名] 音楽Ⅰ(基礎技能)(ピアノ)</p>	<p>[担当者] 下記参照</p>
<p>[開講期] 2年前期</p>	
<p>[授業目標] “Piano method”を中心に基礎テクニックを学び楽器による表現力を習得し音楽的理解と教養を深める。そして将来の保育者としてより高い専門性を身に付けることをねらいとする。尚、授業で使用するメソード以外のピアノ曲集については、担当教員の指示に従うこと。</p>	
<p>[テキスト・参考書] テキスト 「Piano method」鷺見五郎著 共同音楽出版社 参考書 チェルニー100番、ソナチネ、ソナタ・アルバム、ブルグミュラー25番他</p>	
<p>授業計画</p>	
<p>(概説) 多くの楽器の中で何故ピアノを学ぶのでしょうか?子どもの集団に対して説得力のある音楽教育や保育をするには、可動性のあるギターやアコーディオンのような楽器の方がいいのではないのでしょうか?ピアノは(アコーディオンもそうですが)旋律と伴奏を同時に奏することの出来る楽器です。しかも10本の指を自在に走らせることができまるやかな音色と最高に広い音域を持つ楽器です。オーケストラ曲を全体のバランスを損なうことなく編曲再現出来るのも(シンセ)を別にして、ピアノしかありません。約200本の弦から生じる倍音の数も他の楽器とはくらべものにならない多さですから、子どもの精神に及ぼすプラス効果も大きいと考えて良いでしょう。最初の発明者はメデイチ家の楽器管理係のバルトロメオ・クリストフオリ等で現在の名称はシビオーネ・マッフェーイが1711年出版物中で用いた“強弱の出せるハーブシコード”を短縮したものです。色々の理由から音楽の王者“声楽”に対して比肩できる楽器は“ピアノ”ということになると思います。ついでにつけ加えると、就職試験にはかなり高度のピアノ演奏や幼児曲の弾き語りが要求されますから、最低第Ⅳグレードをめざして頑張ってください。</p> <p>さて、いい音楽というのは次の①と②がバランスよくまざり合った時に出現します。</p> <p>① テクニック・・・目に見える。他人が評価しやすい。</p> <p>② 音楽性、感性等・・・目に見えない。評価しにくい。</p> <p>①と②は相互に作用し合いながら進歩、充実して行く関係にあるので初歩から上級までの各段階で「もうこれでよい」ということはありませんが、特に初心者と中級程度の人は自分の持っている“歌心”を上手に表現できるようにテクニックの確実な習得をめざして努力してください。</p> <p>[テスト曲] GI・・・P. 27 カッコウ GII・・・P. 51スケール、カデンツ、曲は未定 GIII・・・P. 64スケール、カデンツ(ペダル)、曲は未定、 GIV・・・未定 GIV・・・担当教員が選曲指定する。 [各グレードに対応する評価点](平常点は多少影響する) GII合格・・・(B)60~79(初心者の場合80点もあり得る) GIII合格・・・(A)80点以上 GIV合格・・・(A)80点以上</p> <p>[担当者] 秋山治子・稲村敬子・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子 瀬戸由起子・関根美和子・平さわ・西沢和枝・西山裕子・野村真理子 福島省吾・藤島恵子・外本清美・山本由起子(2名のり)・岡益代(1名のり)</p>	
<p>[評価方法] 実技グレードテストを半期ごとに実施し、最終的に第Ⅲグレード以上の合格者が成績評価の対象になる。各期の試験は全員が受験しなくてはならない。また、2年次の最終試験以外は、追、再試を実施しないから気をつけること。 ピアノの最終成績はピアノ・カードに100点満点で記載されるが教科「音楽Ⅰ」の成績評価は「ピアノ」「声楽」「基礎理論」の総合評価である。尚、上段に記した評価点や受験の仕方に関しては大まかな内容を示してある。</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（声楽）	【担当者】 惣田修・豊野雄次郎
【開講期】 2 年 前期・後期	
【授業目標】 小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれて来た所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前での（無伴奏・伴奏付）演奏が自由に出来る様になる事を目標とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト ソルフェージュ 16 コンコーネ50番(中声用)	
授 業 計 画	
<p>①45分の授業の中で、ソルフェージュを隔週に1回くらいソロする事によって人前での演奏（無伴奏）に慣れる。</p> <p>②コンコーネを階名で練習をし、声区の転換と声と息のミックスを感じる為に、各母音でこまかく練習をする。又、学生全員の前に出て演奏する（伴奏付）事により、自発的に進んで歌える様にする。</p> <p>③コンコーネをこまかく練習する事により、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。</p> <p>④複雑な音程やリズムのパターンをファイルする能力を養い、読譜力、音楽表現力（正しいリズムや、音程をもって表現する能力）をも養う。</p>	
【評価方法】 平常点、出席点、期末試験の成績	

[授業科目名] 音楽Ⅱ(ピアノ)	[担当者] 秋山治子・稲村敬子・諏訪玲子・関根美和子
[開講期] 2年 前期・後期	
<p>[授業目標] 幼児歌唱教材を数多く取入れて、保育実践に即した即興伴奏法を身に付けるなど、音楽Ⅰで習得した演奏能力を応用力にまで高める。</p>	
<p>[テキスト・参考書] 参考書・「保育・幼児音楽教育のための キラッとマーチ」秋山治子、外本清美ほか、共同音楽出版社 「おかあさん弾いて!先生歌って!」改訂版 秋山治子著、アイ企画、他1冊</p>	
授業計画	
<p>ピアノの初心者にとっては演奏技術を更に高めることも目標のひとつにしながら授業を進めてゆきます。</p> <p>授業の主な柱を次に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児曲の弾き語り（初見力も養う） 2 幼児曲を教材とするやさしい伴奏のつけかた 3 マーチ・ラン・スキップ・ギャロップ・ワルツの演奏と言葉掛けを交えた実践 4 より幅の広い音楽経験をめざした連弾の学習（クラシック・ポップスなどから） 	
<p>[評価方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中に行う小テスト 2 授業への取組み方、マナー、出席など 	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（うた）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期：初見視唱と暗譜を義務づける事により、人の前で歌う事に自信が付き、楽しいと感じられる様にする。</p> <p>後期：暗譜した曲を、自発的にソロする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：サルバトーレ・マルケージ op. 15</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から希望し選択した科目であるため、一人で歌う事を義務づける。 ・一つの音を、持続しながら cresc. したり dim. したりし、自然なふくらみの美しさを学ぶ。 ・言葉がつく事により、発声がむずかしくなる事を知る。 ・全音階の練習 ・暗譜演奏する事により、声がより前になる事を知る。 ・言葉の意味をよく理解し、自分なりの曲想をつけて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・後期に入ると、学生が非常に積極的に一人で歌う事を希望する様になるため、自然な形で練習曲・歌曲共にややむずかしい曲へとすすめてゆく。 ・付点のスケール習得 ・短調による音階の習得 ・半音階の音のとり方のむずかしさを知る。 ・前期から練習して来た練習曲・歌曲を、暗譜で時間いっぱい歌えるという事で、大きい満足感を得る事が出来る。 ・緊張の中で歌う事を経験するために、全員が任意の一曲を独唱する。（テスト） <p style="text-align: center;">*毎時間楽しい歌曲を歌える様に考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点（出席点と実技点）</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（ギター）	【担当者】 小山 勝
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>独奏や合奏、あるいは歌の伴奏に、広く親しまれているギターの演奏の実際を理解し、基本的な演奏を身につけるまでの知識とテクニックを学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「新ギター教本」 小原安正・著（ギタラ社刊）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 基本事項 楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解、調弦の方法。 ● 発音の基礎 右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。体、腕、手のコントロール。左手の構え方と指使いの理解。 ● 音階練習 第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。 ● 和音とアルペジオ 三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。 ● ソロ演奏の実習 古典派のギター曲の中から、ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。 ● コードの理解 簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。 	
<p>【評価方法】</p> <p>期末テスト（実技）に平常点を加味して評価する。</p>	

【授業科目名】 図画工作Ⅱ（版・木工）	【担当者】 花原 幹夫・捧 公志郎
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>図画工作Ⅰで学んだ保育者としての造形表現の基礎技能の中から、特に「版・木工」を通して、それぞれの表現の知識と技能の専門性を高め、表現の広がりをめざすことを目標とする。演習を中心に展開していく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと授業の進め方などについての説明をする。</p> <p>◆版</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 版の表現の意味・役割について 2. 版を応用した表現とその種類について 3. 版を応用した表現の実技演習 <p>◆木工</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 素材「木」について（素材に親しむことについて） 2. 木工の表現の意味・役割について 3. 木工を応用した表現とその種類について 4. 木工を応用した表現の実技演習 <p>◆作品の展示について（プレゼンテーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・版と木工を応用して製作した作品を展示する 	
<p>【評価方法】</p> <p>実技演習で製作した作品と、展示プレゼンテーションしたものを評価する</p>	

【授業科目名】 体育 I	【担当者】 若松美恵子・有川いづみ
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の運動に関する発達をふまえ、必要な運動の方法とその指導法を学ぶ。また保育者として適切に運動が行えるよう資質の向上および体力の増強をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト；石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は「自ら動ける身体作り」をめざし、将来保育者として創造的、自主的に動けるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする ② 自分で多様な動きを豊富にみつけ動けるようにする ③ 動きの連続がなめらか、かつ起伏をもったある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする ④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする <p>内容；オリエンテーション、幼児体育概論 体操 遊戯 基礎的ステップ 動きの開発（身体の部位、運動の種類の側面から）－1人で、2人で、3人で－ある感じをとらえた一連の動き作り</p> <p>後期は幼児の身体的、精神的、社会的発達をふまえながら特に体力、運動能力の発達について理解を深める。この理解の上に子どもの活発な身体運動を促し、援助するという立場から指導法について学ぶ。</p> <p>内容；幼児期の体育の意義と内容 体力の発達 運動能力の発達 体育指導の目的とねらい 運動内容と指導上の留意事項 体育の今日的課題 運動あそびの教材研究と指導法（体操 フォークダンス 鬼ごっこ 模倣遊び ボール マット 跳び箱 鉄棒 平均台 輪 縄 伝承遊び 遊びの創作）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する。</p>	

【授業科目名】 体育II	【担当者】 榎本至
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>現場で実践可能な様々な運動種目の紹介を中心として授業を展開する。またそれを通じて、運動の指導者として必要な態度や知識・及び実践能力を高めていく。身の回りの環境を活かし、運動能力の異なる幼児達がみんなで楽しめる、そういった遊びを工夫できる指導者を目指す。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に用意する必要はない。参考書については授業中に適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>以下の運動種目について、知識及び実践方法を紹介する。各種目について1～3回の授業を予定している（順不同）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソロワーク（遊具を使わず、一人で行う運動） ・ ペアワーク（遊具を使わず、二人で行う運動） ・ グループワーク（遊具を使わず、三人以上のグループで行う運動） ・ フープ（フープを用いた様々な運動） ・ ボールワーク（様々な大きさ及び形のボールを用いた、運動やゲーム） ・ 跳び箱（跳び箱を用いた運動やゲーム） ・ マット（マットを用いた運動やゲーム） ・ 縄跳び（短縄や長縄を用いた運動） ・ ニュースポーツ（フライングディスクやユニホックなど） ・ その他 <p>-----</p> <p>注意事項</p> <p>○授業は毎回、体育館で行うことを予定している。必ず運動の出来る服装・及び専用のシューズを用意すること。普段着や外履きとの兼用は認めない。後期はかなり冷え込むこともあるので、防寒対策（特に手袋）を整えて授業に臨むこと。</p> <p>○学園祭・実習などの都合上、開講時数が少ないので、なるべく休まずに出席すること。また、就職活動などやむを得ない欠席の場合は必ず連絡すること。</p>	
【評価方法】	<p>実技種目であるために、出席を極めて重要視する。怪我等で運動不可の場合も、見学（ミニレポート提出）により出席扱いとする。また、授業最終時にレポート提出を義務づけ、出席及び平常点と合わせて評価する。</p>

[授業科目名] ゼミナールⅡ	[担当者] 秋山治子
[開講期] 2年 前期・後期	
<p>[授業目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 どんな場面にも対応できるような音楽表現の力を一人一人が得る 2 音楽を知る、わかる、近づく、工夫する、そして楽しむ 3 上記1、2で培った力で一人またはグループで論文を書く 	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>ゼミの中で適宜指定・紹介する</p>	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ室にある色々な幼児向けの打楽器や旋律楽器に親しむ 2 みんなで歌いたい曲を持ち寄って歌う 3 ミュージカルなどのビデオ観賞をして話し合う 4 どんなことでもいいから（子どもの）音楽について問題意識を出し合い各自が興味あるテーマを立てて徐々に論文作成にとりかかる 	
<p>[評価]</p> <p>ゼミ活動への参加状況と卒業論文</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年 前期・後期	
【授業目標】 「あそび」をテーマにして、各自、グループで研究する。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>①「あそび」に関する多様な問題を取りあげ、調べて論議し、的を絞る。</p> <p>②「あそび」の観察をし交流し分析する。</p> <p>③「あそび」の事例を読み、分析する。</p> <p>④各自、グループで研究をしてまとめる。</p>	
【評価方法】 レポート提出	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 コンサートでの演奏、ミュージカルの公演など、自分たちの声を生かした発表の場を一回でも多くもつこと。（実際に人の前で演奏する事により、自分の声の改善されていない部分を再認識し、より良い声へ向けて研究・努力すること）	
【テキスト・参考書】 : 加古三枝子 「歌のうたい方」(参考書) : 歌曲・ミュージカル等 テキスト多数 * 研究室にすべて用意してあります。	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠで、基本姿勢、基礎発声等を学びやや声が出るようになったゼミナールⅡでは、一人一人の声質にあった歌曲等のやや専門的なレッスンに入ります。それと並行してミュージカルの具体的な練習に入っていきます</p> <p>専門的なレッスンの成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、</p> <p style="padding-left: 40px;">クリスマスコンサートや新春コンサート等 演奏の形で発表します。</p> <p>又 子どものミュージカルやディズニーパラダイスなどを研究し（時間が、ある場合のみ）幼稚園・保育園・児童館等で公演したりする事もあります。</p> <p>こまかい授業のすすめ方や、ミュージカルの選定（ゼミナールⅠで決定されている場合を除き）はゼミのメンバーの顔ぶれによって、話合いのうえ決定します。</p>	
【評価方法】 平常点	

【授業科目名】 セミナールⅡ	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「たてわり保育」の研究をテーマとし、その意義と長所および問題点を考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>保育雑誌や研究紀要等から関連する論文を探し、さらに園における「たてわり保育」の実践報告や記録などを読む。</p>	
授 業 計 画	
<p>一年後期の学習につづき、文献講読や見学を通して、たてわり保育の多様な形を知るとともに、幼稚園や保育園の一日の生活のなかでも異年齢の子どもたちが関わりをもつさまざまな時と場が存在することを理解する。</p> <p>今日の子どものおかれている状況、その家庭や社会の実状から、たてわり保育の意義について考え、ゼミナールの中での研究や討議により望ましいたてわり保育のあり方とその保育計画を描くことを目的とする。</p> <p>文献を読み、まとめ、発表する力や、一緒に考えて話し合う力、さらに自分の考えを文章にまとめる能力を養うことを目指す。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① ゼミナールの活動への参加</p> <p>② レポート</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】小松 歩
【開講期】 2年前期 ・ 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもにとって必要な「学び」とは何か、また、保育者と子どもの関係はどうあるべきかについて、生涯発達の視点にたって学び、考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ゼミ時間に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールテーマ</p> <p>子どもにとってよりよい発達を考える</p> <p style="text-align: center;">——子どもの発達ニーズに応える保育者のあり方——</p> <p>子どもの発達についての基礎的な知識を確認し、過熱する早期教育ブームの影響など、現代の子どもがおかれた状況と子どもの「発達ニーズ」についての理解を深める。</p> <p>また、大人の視点からみた「教育＝教えること」と子どもの視点からみた「学ぶこと」について文献をもとに学習する。その際、発達の主人公である子どもと、それを支える保育者の関係が子どもの発達にそって変化していくものであり、それはどんな関係なのかを、「発達の最近接領域」の概念を提起したヴィゴツキーらの考えを参考に整理し、援助者であると同時に自らも発達の主人公である保育者と、子どもとの関係はどうあるべきか、互いに考えあいたい。</p> <p>また、白梅祭などにも参加するなど、ゼミ員各自が積極的に活動し、相互の交流も深めらていけるようなゼミ運営を期待する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（学習態度、レポート）</p> <p>卒業レポート</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ

【担当者】 佐々加代子

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】

教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動をとうして、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。

【テキスト・参考書】

随時提供する。

授 業 計 画

保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな人たちとさまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか。その内容は……。さまざまな人間関係の場면을、コミュニケーション場面としておさえ、その時々、発信者としての自分、受信者としての自分の内容を見つめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のなかでの関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。

そのために以下の活動をする。

1. 乳幼児の観察（新生児からを含む）
2. 障害児の観察
3. 幼稚園児の幼稚園における遊びの観察
4. 1～3の場面でのかかわり、ともに活動することをとうして、発達についての目を養成
5. さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討
6. 教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など）
7. 発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読などの養成
8. 発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫

いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。

【評価方法】

平常点で行う

【授業科目名】 ゼミナール II	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 2年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】 ゼミテーマ : 「ノーマライゼーションの追求」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白梅が存在する小平市周辺地域に焦点を当て、こどもたち、障害児・者、高齢者など、住民の生活実態がどうなっているか、そこから派生する生活・福祉ニーズを学び、生活援助の視点、援助実践の方法を考察します。 2. その際、96年度、および97年度ゼミ学生の研究してきた到達点を学び、継承します。 3. ノーマライゼーションの理念を学び、その観点から福祉サービスを検証します。 4. ゼミ学生が居住している自治体に対し目を向け、同じく検証します。 5. 春、夏のゼミ合宿先の実践から学び、ゼミテーマの追求を図ります。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示します。</p>	
<p>【授業計画】</p> <p>このゼミでは、授業目標に沿って、地域で生活する住民（児童、障害者、高齢者をはじめとした地域住民）が、住み慣れた地域社会で、ひととしての暮らしを営むには、どのような援助が必要とされるのかを学んでいきたいと思えます。</p> <p>前期では、1年次での学びを継続し、高齢者や障害者、子どもたちの生活実態を学ぶとともに、北欧の福祉を形づくる上で大きな功績のあったデンマークの故ニルス・エリク・バンク-ミケルセンによるノーマライゼーションの理念を追求します。同時に、96年度、97年度ゼミII学生の記事を学び、今年度のグループ研究テーマについて検討します。</p> <p>後期には、グループ研究を進めると共に、平行してゼミ学生が居住している自治体の福祉サービスの状況にも目を向け、ゼミとしてのまとめと、各人のまとめレポートの作成に入ります。</p> <p>学外研修は、従来の沢内村から滋賀県大津市に場所を変え、重症心身児・者施設「第一ひわご学園」や保育所における統合保育実践等での見学・実習を含め3泊4日のゼミ合宿を行います。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度、卒業レポートの作成状況により評価します。</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ

【担当者】 鈴木佐喜子

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】

より良い乳児保育を求めて
ゼミナールⅠの学習を基礎に、さらに乳児保育の内容や乳児保育をめぐる問題を具体的に学習し、乳児保育についての理解や具体的な課題意識を深める。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

I. 乳児保育実践の検討
II. 乳児保育をめぐる問題の学習と検討
の2つの柱のもとに、前半は乳児保育の内容・方法や乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げた文献、論文の学習、検討を行う。後半は、各自の研究関心を出し合い、一つのテーマに絞って、主体的に調べたり、学習したことをまとめている。適時、保育園等の見学を行い、乳児保育実践のあり方や乳児保育をめぐる問題についての理解を深める。

【評価方法】

【授業科目名】 セミナールⅡ	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 2 年 前期・後期	
【授業目標】 <ul style="list-style-type: none"> ① さまざまな発達のつまずきを持つ子どもたちへの理解を考える －『特別な発達ニーズを持つ子どもたち』の理解－ ② 発達につまずきを持つ子どもたちとの遊び実践を創造する ③ 生涯発達の視点にたって現代社会に生きる子どもたちへの援助を考える 	
【テキスト・参考書】 テキスト：ゼミ時間に適宜、指定する	
授 業 計 画	
<p>テーマ： 特別な発達ニーズをもつ子どもたちへのよりよい援助を考える －発達につまずきのある子どもたちとの 「あそびの会」実践を通して－</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会に生きる子どもたちの抱える発達ニーズは、障害を持つ子どもたちだけの問題ではない。広く人間理解の視点から、子どもたちの抱える発達ニーズをとらえることの意義と実際について学習する。 ；文献研究を中心に進める 2. 発達ニーズを持つ子どもたちと親との遊び実践を通して、問題の所在と保育者としての援助の実際とあり方について、学習する。 前期を中心に： <ul style="list-style-type: none"> ① 障害児通園施設に見学・実習を行い、保育実践を知る。 ② 見学実習をふまえて、各グループ毎に、「遊び」を作り実践する。 ③ 実際に、発達につまずきのある子どもたちへのあそびを実践する。 3. 上記の遊び実践を通して、保育者の抱える実践的問題について深める。 後期を中心に： <ul style="list-style-type: none"> ① 子ども1人ひとりの発達ニーズをとらえることとは。 ② 子ども1人ひとりにあった発達援助を創造することとは。 ③ 子どもと親たち家族が、社会の中で生きていくこととその支援とは。 ④ 生涯発達の視点から考える、現代の子どもたちへの発達支援とは。 ⑤ 学生各自が見いだした研究テーマにそって、論議、研究を進める。 	
【評価方法】	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは『子どもの造形と遊び』について、協同で研究する。共通の具体的なテーマと目的にそって、各自が主体的に問題意識をもち、協同しながら研究をしていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆特に「保育とデザイン」というアプローチで研究をすすめていき、「モノのデザイン」と「コトのデザイン」を考え、さらに「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを、保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていく。</p> <p>◆研究の具体的なテーマ・目的・方法などについては、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、調整して、初期の段階で決定していく。</p> <p>◆活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールと、こちらのスケジュールとを調整しながら行なっていく。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価する）</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育における健康問題について把握するとともに、解決するための効果的な方法について、文献講読や質問紙調査を通して理解する。 2 子どもの健康を守り育てるための研究方法について身につける。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 使用しない</p> <p>参考書 小児保健研究. 学校保健研究. 日本公衆衛生雑誌. 保健の科学. からだの科学 辻 新六、有馬昌宏：アンケート調査の方法、朝倉書店、1987年.</p>	
授 業 計 画	
<p>「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的、実践的に学ぶ。</p> <p>まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題を明らかにしたり、解決するための方法について、研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったこと、疑問に思ったことについて、質問紙調査を実施して明らかにする。最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策について考察・検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、今日の健康問題を捉える・・・個人レポートの発表 2、健康学研究の方法を知る・・・研究論文の講読・検討 3、ゼミ研究の共通テーマを決める <p>〔過去のゼミテーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のアトピー性皮膚炎 ・保育者のエイズへの意識と対応 ・保育者のストレス状態とその背景 ・学生の月経痛の状況とその対処法 ・肥満とダイエット <ol style="list-style-type: none"> 4、テーマに関する文献研究をする 5、質問紙調査を実施する 6、研究論文を作成する ：解決策の検討 7、研究の成果を発表する 	
<p>【評価方法】</p> <p>個人研究レポート</p> <p>ゼミ学習に対する意欲と努力</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ

【担当者】 八木 絢一郎

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】

このゼミナールは、保育者になろうとする学生自身と子どもの表現を豊かに育てることを考察するために、方法として造形的工作を前面にだした人形劇活動を通して研究する。

【テキスト・参考書】

「想像力の発達」内田伸子／サイエンス社

授 業 計 画

■前期

(1年間を通して、分析資料用としてゼミ活動の記録、定期的アンケート収集する)

1. 人形劇活動に関する基礎知識の修得
上演見学
先行上演の考察
2. 上演のための制作活動
材料研究
3. 上演 ① 近隣の幼稚園児対象

■後期

4. 再度人形劇上演を目指して考察・制作
5. 上演 ② 近隣の幼稚園：保育園児対象（対象拡大）
6. 上演結果及び表現記録の分析をする。

【評価方法】

平常点

【授業科目名】	ゼミナールⅡ	【担当者】	吉川研二
---------	--------	-------	------

【開講期】	2年 前期・後期
-------	----------

【授業目標】

自然界には模範解答のない問題がたくさんある。自然の事物や現象に関心をもち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。

【テキスト・参考書】

基本は“Study Nature Not Books”
個々のゼミテーマごとに参考図書、資料を使用

授 業 計 画

自然の事象にかかわる観察や実験研究、あるいは自然教育・環境教育に関係する調査や活動をする。

個人の研究テーマを決め調査研究を行う。

学内の講義のほか、テーマに対応して複数の野外演習を実施する。

〔1998年度ゼミ予定〕

①	4. 7	テーマ決定	⑪	9. 29	中間報告書提出(1)
②	14	研究計画書作成	⑫	10. 6	(2)
③	21	研究方法の検討	⑬	13	参考資料など収集
④	4. 28	調査研究開始	⑭	20	
⑤	5. 12			10. 24	白梅祭
	6. 9			25	”
⑥	16		⑮	10. 27	
⑦	23		⑯	11. 24	
⑧	30	経過報告(1)	⑰	12. 1	個人研究発表(1)
⑨	7. 7	(2)	⑱	8	(2)
⑩	14		⑲	15	(3)
	7. 21	(補講)	⑳	22	
	8. 4	学外研修	㉑	1. 12	ゼミまとめ
	5	”	㉒	19	”
	6	”	㉓	26	”
	7	”		2. 2	(補講)
				16	ゼミ発表準備
				17	ゼミ発表(口頭/ポスター発表)
				18	”

【評価方法】

平常点+レポート

【授業科目名】 セミナールⅡ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について文献の精読、レポートを書く、報告、討論、研究の方法の習得等により理解を深め、さらに、子どもと共に動き、楽しめる保育者になることをめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」 舞踊学第2号, 舞踊学会 板野平 「みんなでやろうリトミック」 ひかりの国株式会社 若松美恵子 「保育の中の運動あそび」 明文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>2年前期は1年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問等から研究テーマを見出し研究を進めると共に学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする</p> <p>① 先行研究の精読 ② 研究テーマ、方法の決定及び研究の推進 ③ 学生自身の選んだテーマで身体表現活動 ④ 手あそび、フォークダンス、リトミックの模擬指導</p> <p>2年後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する</p> <p>① 身体表現（ダンス）を文化祭で発表する ② 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する</p> <p>過去の主な研究テーマ</p> <p>4歳児、5歳児の身体表現の指導 幼稚園、保育園における手あそび、フォークダンスの指導</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナールの全ての活動を通して評価する。</p>	

【授業科目名】ゼミナールⅡ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次のゼミナールの成果を踏まえ、個々人のテーマを設定し、課題を研究しまとめる力を養う</p> <p>問題をより深く掘り下げ、原因、背景から課題、展望に至る児童福祉の研究と実践の姿勢を養う</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：浅井春夫編著『子ども虐待シンドローム』恒友出版</p> <p>その他必要に応じて紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の計画の確認 <ul style="list-style-type: none"> 1年次に学んだもの、個々の問題意識について検討する 個々人の課題に関連して、グループ化し、研究方法を検討する。 2. グループによる検討課題を提起し全体で検討する <ul style="list-style-type: none"> 前期はグループとしての共同の検討課題を深めつつ、後期にむけての個々人の研究テーマを探る 3. 後期は個々人の研究テーマに関連して、全体検討を行い、個々の研究レポートの作成を進める 	
<p>【評価方法】</p> <p>参加姿勢と研究論文</p>	

「授業科目名」 ゼミナール II	「担当者」 村田 保太郎
「開講期」 2年 前期 後期	
「授業目標」 障害者自身や親の手記を読み合い、その中から「育てる」{いどむ}{生活する}{生きる}ことでどの様な問題や経緯があったかを抽出して、障害者がもつ問題の本質や、そのための援助の在り方を考究する また、障害者福祉の在り方について考える。	
「テキスト・参考書」 ゼミメンバー全員分の著書を、担当者が11冊分用意する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1、メンバーが、各自1冊ずつ読み、それを全員分すべて読む。 2、分析の観点と考察 障害の種別。発達の状況。生育史。親・兄弟・姉妹・家族・家庭での養育・学校の問題・療育機関の問題・訓練機関の問題・障害者を取りまく社会の問題・障害者とかかわった人の問題・施設の問題。これまでにあった中で手記から感動したことなど。 3、各個人が自分なりに、整理・分析し、それを全員で討論し、それをまた自分で、もう一度考えをまとめてみる。 4、障害者{全盲・和波孝義-バイオリニスト}演奏を聴く。 5、著者、著書に出てくる障害者と語り合う。 6、同じく、施設に入っている障害者を訪問したり、話し合ったりする。 7、ゼミ合宿したりして、話し合いを深める。 	
「評価方法」 <ol style="list-style-type: none"> 1 日常の取り組みの姿勢、{ゼミ会の出席・日程に従って本を読む} 2 本を読んだ、整理・分析・問題の把握・掘り下げた感想等} 3、ゼミ会への協力態度 	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>地域における生活問題を考える中で、現代社会における社会福祉のあり方について考察する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>人々が実際に生活している地域の中で、どのような福祉問題が起こっているのか、また誰がどのような立場で、どのような方法・技術をもって援助を行っているかなどについて具体的にその現状と課題を考察する。</p> <p>そのなかで、各自の問題意識をより明確にするとともに、ゼミ生どうしのディスカッションを通してお互いに学び合う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点による。</p>	

【授業科目名】 ゼミナールII	【担当者】 近藤正樹
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>身近な自然現象について、認識を深めるための体験を大切に、まだ知らなかったことや、疑問を解くために、個人単位で研究をしていただきます。この学習を通して研究の企画・実施・論文の書き方・口頭発表のしかたについて体験することになります。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：田中未来 編著 「保育研究の視点と方法」 川島書店刊 参考書：飯田良治・民秋言 編 「課題研究・ゼミナールの手引」 萌文書林刊</p>	
授 業 計 画	
<p>前期 4月7日 研究テーマの検討 (テキスト持参) 4月14日 著書紹介① 研究テーマと研究計画書提出 4月21日 著書紹介② 研究計画書提出 (再提出者のみ) 4月26日 自然観察会 (高麗—中着田—宮沢湖) 4月28日 著書紹介③ 5月12日 著書紹介④ 6月9日 研究相談 6月16日 個人別研究活動① 6月23日 個人別研究活動② 6月30日 個人別研究活動③ 7月7日 研究内容の中間報告 7月14日 研究評論 8月4～8日 セミ単位研修旅行</p> <p>後期 9月29日 研究計画の再検討 10月6日～27日 研究相談 11月24日 研究内容の報告 12月1日 講義「論文の書き方」 12月8日 研究相談 12月15日 研究論文の提出 1月12日 研究論文の添削指導 1月19日 研究の口頭発表の留意事項・発表原稿の提出 1月26日 セミ内口頭発表会 2月17日 18日 保育科ゼミナール研究発表会</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習態度・研究計画と方法・論文と口頭発表を総合して行う。</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 小松 歩・加宮 葵 ほか
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 1年次の「見学・観察実習」をふまえて、2年次は、3週間にわたる実習で、幼稚園教育に参加する。今回は、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。	
【テキスト・参考書】 参考書：「幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう」 萌文書林 阿部明子・岡本富郎 ほか著	
授 業 計 画	
<p>2年次の実習は、「参加・指導実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日間の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>【2年次】 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1週目 ・保育計画の流れと関係させて指導を理解する。 ・子どもの遊び場を主に観察する。</p> <p>2週目 ・指導に部分参加（指導計画案の作成） ・子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する。</p> <p>3週目 ・子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>今回はとくに、「指導計画」を立案することが求められるので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。 2年次のオリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p>① 参加・指導実習とは（全般的説明）</p> <p>② 遊びへの関わり方</p> <p>③ 実技（絵本・童話・手遊び）</p> <p>④ 指導計画の立て方</p>	
【評価方法】 <p>① 学内オリエンテーションへの出席／受講</p> <p>② 実習日誌</p> <p>③ 実習中の出欠席</p> <p>④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目名】 実習指導（保育所実習Ⅱ）	【担当者】 鈴木佐喜子・近藤正樹 ほか
【開講期】 2 年 前期・後期	
【授業目標】 事前指導として、実習の目的・意義・テーマ、保育所における子どもの活動と指導計画、指導法、指導案の立て方などについて学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価指導を受ける。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。	
《実習前》	
I. 講義	<p>「保育所実習Ⅱ」のすすめ方と実習日誌の書き方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの活動と保育者の指導法について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> 1)子どもになじみ、その遊び、生活を体験しながら学ぶ。 2)保育者の指導内容・方法について学ぶ。 3)指導計画案を作成して指導実習を行う。 2. 指導案・指導法 <ul style="list-style-type: none"> 指導実習を通して指導案の立て方・指導法について学ぶ。 幼児の指導案・指導法は「幼稚園実習」・「保育計画法」でも学ぶ。 乳児の生活に関わる部分の講義は「乳児保育」・「小児栄養実習」などで扱う。 3. 実習日誌の書き方
II. 講義	保育における子どもの遊びと指導計画
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳以上児の遊び指導の方法 2. 3歳未満児の遊び指導の方法
III. 講義	保育所における遊び指導の実際
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境の設定 2. 年齢別の遊びの実際
IV.	実習日誌の提出・点検・指導
実習	9月16日（水）～9月28日（月） 10日間
《実習後》	
V.	<p>実習を振り返って（反省会） 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をゼミ単位で実施。</p>
VI.	実習日誌の提出・点検・指導 個別面接
【評価方法】 平常点	

【授業科目名】 保育所実習Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子 ・ 近藤正樹
【開講期】 2 年 前期	
【授業目標】 1年次の「保育所実習Ⅰ」の学習を土台に、乳幼児の生活、遊びなどに関するより高度な観察、理解を進めるとともに、保育者の子どもへの対応、指導課程、指導法などに学び、指導案をたてて実習を行う。	
【テキスト・参考書】 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園の施設要覧・入園のしおり・園便りなど	
授 業 計 画	
<p>2年次の「保育所実習Ⅱ」は「施設実習Ⅱ」との選択必修科目である。</p> <p>「保育所実習Ⅱ」は1年次の「保育所実習Ⅰ」に継続し、原則として同じ園で行う。今年度は9月16日（水）から9月28日（月）の10日間行われる。1年次の「保育所実習Ⅰ」、1・2年次の「幼稚園実習」を終え、「保育所実習Ⅱ」では、保育に助手的な立場で参加する中で、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育への理解をさらに深める。 2) 配属クラスでの指導の実際と方法を学ぶ。 3) 実習期間の後半を中心に、指導案を立て指導実習を行う。 <p>指導実習は配属クラスの子どもの年齢や実習園の実情に応じて実施する。</p> <p>なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
【評価方法】 学内オリ（実習指導）への出席／受講・実習日誌の記録 実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価	

【授業科目名】 実習指導（施設実習Ⅰ）	【担当者】 佐々加代子 中山正雄
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>養護施設、精神薄弱児施設など各種児童福祉施設（保育所を除く）での保育実習は保母資格取得のための必須科目である。事前指導では、養護系・障害系に大別して基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について学ぶ。実習では児童や職員との人間的なふれあいの中で施設養護の実際を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「実習ガイドブック」「実習日誌」必須 参考書：授業のなかで紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>養護施設や精神薄弱児施設など保育所以外の児童福祉施設には、さまざまな環境・立場で生活している児童や障害児・者が生活している。そこでの実習は、単に保母資格取得の必須科目であるというだけでなく、保育者をめざす諸君の人間観、児童観、児童養護観、保育者像を検証し、確立していくことの第一歩となろう。なお、施設保母をめざす者には選択実習（施設実習Ⅱ）も用意されている（8月中旬10日間）。今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <p>（事前指導）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション 養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。 また、次のような課題を課す。 ①実習先施設に関する基本的文献（指示する）の読後感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先施設についてその概要を調べる。 ③自らの実習課題と抱負を明らかにする。 2. 制度オリエンテーション 障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。そのうえで、福祉制度における養護施設や精神薄弱児施設など各種施設独自の役割について学ぶ。 3. 処遇オリエンテーション 施設における生活の実際や、養護児童、障害児・者の特徴（症状・行動特徴・具体的注意点など）、指導の現状と課題などについて、現場の方に直接説明していただく。 <p>（実習期間） （11/4～14：標準10日間 施設により期間が前後することがある）</p> <p>（事後指導） 反省会 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成を各ゼミ単位で実施。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目名】 実習指導（施設実習Ⅱ）	【担当者】 佐々加代子 中山正雄
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>養護施設、精神薄弱児施設など各種児童福祉施設（保育所を除く）での養育についてさらに深く学びたい者のために、選択必修科目の実習として用意されている。施設実習Ⅰを踏まえ、養護に関する基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について、さらに深く学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『実習ガイドブック』『実習日誌』必須 参考書：授業のなかで紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>施設実習Ⅱは、基本的には施設保母としての就職を希望する者のために開講されている。実習の意義・方法は施設実習Ⅰと変わるところはないが、施設実習Ⅰで行なった種類以外の児童福祉施設で実習することになる。施設実習Ⅰ・Ⅱの両方で、養護系と障害系（収容または通園）の2種類の実習が望ましい。実習時期は、2年次の8月の間に随時実施する。希望者は担当教員に早めに相談されたい。</p> <p>今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <p>《事前指導》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション 養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。 また、次のような課題を課す。 ①実習先施設に関する基本的文献（指示する）の読後感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先施設についてその概要を調べる。 ③自らの実習課題と抱負を明らかにする。 2. 制度オリエンテーション 障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。そのうえで、福祉制度における養護施設や精神薄弱児施設など各種施設独自の役割について学ぶ。 3. 処遇オリエンテーション 施設における生活の実際や、養護児童、障害児・者の特徴（症状・行動特徴・具体的な注意点など）、指導の現状と課題などについて、現場の方に直接説明していただく。 <p>《実習期間》 （8/18～28：標準10日間 施設により期間が前後することがある）</p> <p>《事後指導》 反省会 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成を各ゼミ単位で実施。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
教務課042(346)5619